

|   |              |      |   |
|---|--------------|------|---|
| C | アケボノソウ リンドウ科 | 2009 | B |
|   |              | 2017 | C |
|   |              | 2023 | C |

*Swertia bimaculata* (Siebold & Zucc.) Hook. f. & Thomson ex B.C. Clarke

【種の特性】多年生草本。茎は直立し高さ 50～80cm、多くの枝を分か  
かつ。葉は単葉で対生し卵形～披針形。花は 9～10 月。花は白色で、  
裂片の先に緑色の斑点、中部に黄緑色の腺体がある。虫媒で風散布。  
[Th] オオバセンキュウータネツケバナ属群団。

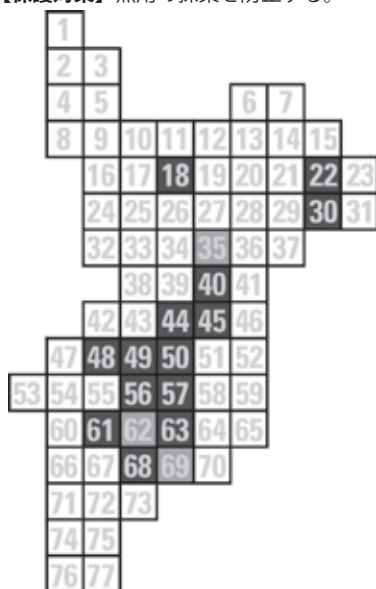
【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】日向からやや日陰の湧水湿地、沢沿いに生え房総丘陵  
に多い。水の停滞する平地の湿地には見られない。

【保護対策】無用の採集を防止する。

【文献】千植誌 2003：452,  
453

(大場達之／天野誠)



|   |              |      |   |
|---|--------------|------|---|
| C | ツルリンドウ リンドウ科 | 2009 | C |
|   |              | 2017 | C |
|   |              | 2023 | C |

*Tripterospermum japonicum* (Siebold & Zucc.) Maxim.

【種の特性】多年生つる草本。シイ・カシ帯からハイマツ帯にまで分  
布する。葉は単葉で対生。虫媒で、虫散布。[H]

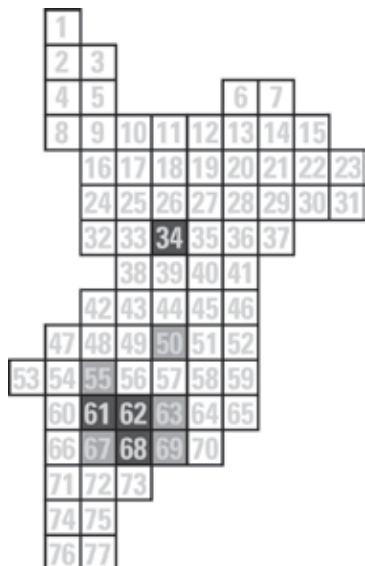
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、千島、サハリン。

【県内の状況】湿った照葉樹林、スギ林などの下に生える。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：451, 443

(大場達之／天野誠)



|   |            |      |   |
|---|------------|------|---|
| C | ヤブムグラ アカネ科 | 2009 | B |
|   |            | 2017 | C |
|   |            | 2023 | C |

*Galium newerthii* Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。やや湿った夏緑林あるいはスギ林の林床に  
生える。葉は単葉で輪生、縁に逆刺がない。虫媒で重力散布。オオバ  
ノヤエムグラの貧弱なものに似ているが、果実は無毛。ケヤキ群団。[H]

【分布】本州（関東）。

【県内の状況】千葉市、山武市、八千代市、酒々井町、佐倉市で採集  
された標本がある。オオバノヤエムグラに似ているので見逃されてい  
る可能性がある。山武市の生育地ではスギ林の林床に広範な群落を形  
成している。

成している。

【保護対策】生育環境を良好  
に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：368 /  
千植誌 2003：477

(大場達之／谷城勝弘 追補)



|   |            |      |   |
|---|------------|------|---|
| C | ハナムグラ アカネ科 | 2009 | C |
|   |            | 2017 | C |
|   |            | 2023 | C |

*Galium tokyoense* Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で 6 枚輪生。多花で花冠は 4 裂し、  
白色。虫媒で、水散布。[H] オギーヨシ群団。

【分布】本州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川水系及び栗山川周辺に群生地が確認されている。

【保護対策】大型草本の刈り取りを行い、小型草本の生育可能な環境を  
維持することが望ましい。

【文献】岩瀬・谷城・市原・野口・久保田 (2007)：栗山川中流部河川敷  
の植物と植物群落。千生誌 57 (1, 2): 39-45 / 千植誌 2003：477, 460

(大場達之／谷城勝弘 追補)



### C ソナレムグラ アカネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Hydrotis biflora* (L.) Lam. var. *parvifolia* Hook. & Arn.

【種の特性】 海岸の崖地に生える小型の常緑多年生草本。茎は多く分岐して地に広がり、全体に肉質。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。ソナレムグラ・コウライシバ群団。[H]

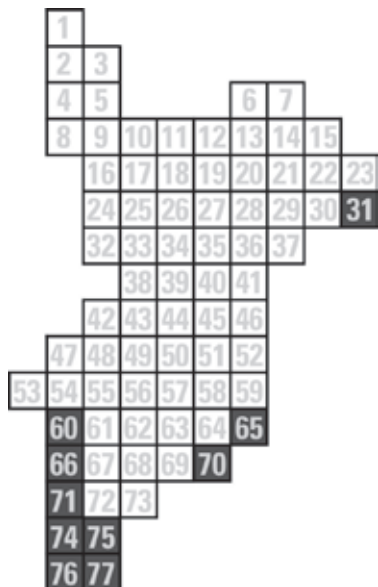
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、熱帯アジア。

【県内の状況】 銚子市、県南部に点在する。個体数は少ない。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：467

(大場達之／谷城勝弘 追補)



### C サツマイナモリ アカネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Ophiorrhiza japonica* Blume

【種の特性】 暖地の山の木陰に生える常緑多年生草本。葉は単葉で対生。花冠は筒型で先は5裂し、内側に白い毛が生え、乾くと赤褐色になる。花期は1～4月。虫媒で風散布。[H] カクレミノ・スダジイ群団。

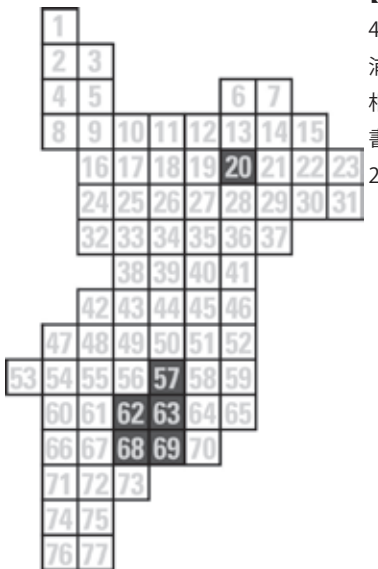
【分布】 本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】 県南部の丘陵地の谷間の湿潤な所に生育する。清澄、三石山系に多い。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：466,457.／谷城・森 2007：内浦山自然環境保全地域の植物相.千葉県自然環境調査報告書.千葉県環境部自然保護課 23-40

(大場達之／谷城勝弘 追補)



### C ケブカツルカコソウ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Ajuga shikotanensis* Miyabe & Tatew. f. *hirsuta* Murata

【種の特性】 やや小形の多年生草本。根際から長い匍匐茎を地表にのばす。茎は枝分かれせず高さ10～20cmで上端に穂状に花をつける。花は5～6月。青紫色。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。茎に長い縮毛を多くつける型をケブカツルカコソウといい、千葉県では大部分この形であるが、ほとんど毛のないツルカコソウも見られる。

[H] ススキ群目。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 丈の低い半自然草地に生え、主として北総台地に分布する。

【保護対策】 観賞用などでの採取を防ぐ。自然に近い芝生では過度の草刈りを慎む。

【文献】 千植誌 2003：489, 493

(大場達之／天野誠)



### C コムラサキ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Callicarpa dichotoma* (Lour.) K.Koch

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で対生し倒卵状長楕円形。花は7～8月。淡紫色。果実は紫色。虫媒で鳥散布。ハンノキ群団。[N]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 湿地のハンノキ林の周辺に生え、本来の自生は少ないが、最近庭木として植えられ、それから逸出したものが多い。

【保護対策】 自生のある環境は園芸的に流通しているコムラサキを植えない。

【文献】 千植誌 2003：485, 474

(大場達之／天野誠)



# C カリガネソウ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Caryopteris divaricata* (Siebold & Zucc.) Maxim.

【種の特性】夏緑小低木。やや湿った肥沃な林の林縁に生える。葉は単葉で対生。虫媒で、鳥散布。ヨモギ群綱。[H]

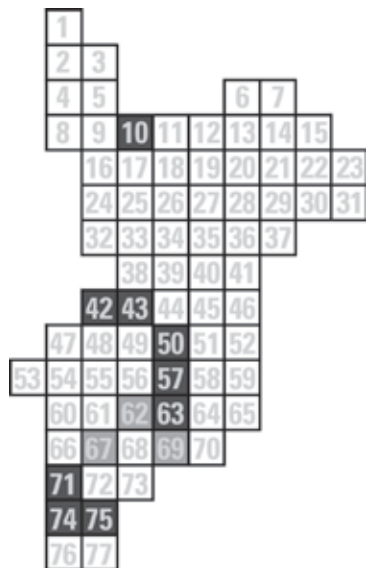
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県南部に多く記録されているが、我孫子市などの報告もある。草食獣が食べないので今後増殖する可能性もある。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：486, 475

(大場達之／天野誠)



# C キセワタ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Leonurus macranthus* Maxim.

【種の特性】多年生草本。路傍・林縁などに偶発的に生える。虫媒で、重力散布。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】県北部に報告が多いが鴨川市からも記録がある。

【保護対策】偶発的に発生する種類なので安定的な保護は難しい。

【文献】千植誌 2003：507, 511

(大場達之／天野誠)



# C ジャコウソウ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Chelonopsis moschata* Miq.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。[H]

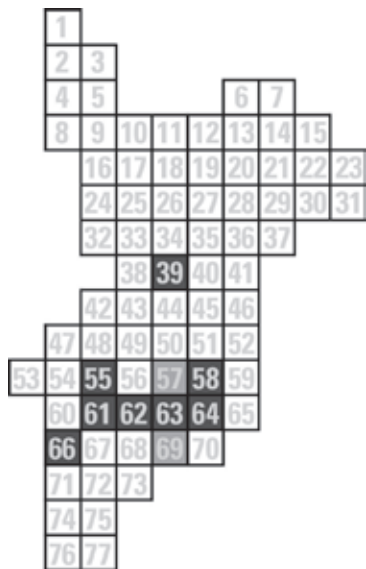
【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】房総丘陵の谷間の湿った林やその林縁に生える。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：506, 510

(大場達之／天野誠)



# C テンニンソウ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Leucosceptrum japonicum* (Miq.) Kitam. & Murata

【種の特性】多年生草本。花茎は直立し高さ 40～70cm。茎の基部は木化する。葉は単葉で対生鋸歯がある。花は 9 月に咲く虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] オニシモツケーオオヨモギ群目。

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】愛宕山などに知られている。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：504, 500

(大場達之／天野誠)



|                                                                            |      |   |
|----------------------------------------------------------------------------|------|---|
| C ヤマトツナミソウ シソ科                                                             | 2009 | C |
|                                                                            | 2017 | C |
|                                                                            | 2023 | C |
| <i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transitra</i> (Makino) H.Hara |      |   |

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。花は青紫色で花筒が花茎に沿って立たず開出することが、ほかのツナミソウ類と異なっている。虫媒で、風散布。低地遺存 [H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】下総台地で記録されている。湿った肥沃な林に生える。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を防ぐ。自生環境を保つ。

【文献】千植誌 2003：491, 494

(大場達之／天野誠)



|                                                                     |      |   |
|---------------------------------------------------------------------|------|---|
| C タヌキモ タヌキモ科                                                        | 2009 | B |
|                                                                     | 2017 | B |
|                                                                     | 2023 | C |
| <i>Utricularia vulgaris</i> L. var. <i>japonica</i> (Makino) Tamura |      |   |

【種の特性】浮遊性の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で水散布。イヌタヌキモとの区別は冬芽の鱗片葉の形態が重要で、冬芽の形成されていない個体では区別が困難である。文献データにはイヌタヌキモが混入している可能性がある。夏頃から側枝に多数の殖芽を形成するものはチョウシタヌキモ (form. *fixa* Komiya) と呼ばれ、浅い水域に見られる。ウキクサ群綱。[HH]。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、千島。

【県内の状況】かつては全域に多く見られたと考えられているが、イヌタヌキモとの区別が明らかでないで、正確な過去の状況は不明である。イヌタヌキモよりより自然的な水域に生えとされている。

【保護対策】生育地の水質を保つ。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9: 201-212 / 千植誌 2003: 546, 549.

(大場達之／天野誠)



|                                  |      |   |
|----------------------------------|------|---|
| C ミゾホオズキ ハエドクソウ科                 | 2009 | C |
|                                  | 2017 | C |
|                                  | 2023 | C |
| <i>Mimulus nepalensis</i> Benth. |      |   |

【種の特性】多年生草本。湧水の周辺などにまとまって生える。花は6～7月に咲き黄色。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[H]

オオバセンキュウータネツケバナ属群団。

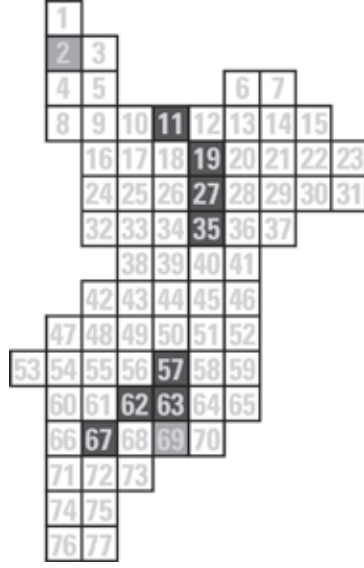
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾。

【県内の状況】おもに下総台地で記録されているが、清澄山などの記録もある。

【保護対策】湧水池を自然な状態に保全する。

【文献】千植誌 2003：538, 528

(大場達之／天野誠)



|                             |      |   |
|-----------------------------|------|---|
| C ミズハコベ オオバコ科               | 2009 |   |
|                             | 2017 | C |
|                             | 2023 | C |
| <i>Callitriche verna</i> L. |      |   |

【種の特性】小型の多年生草本。浅い水中に生える。茎は、分枝し、50 cmに達する。葉は対生する。水中葉は線形、抽水葉はへら形。雄花は1本の雄しべ、雌花は、1本の雌しべからなる。水媒で、重力散布。湿地や水田に生育する。[Th～HH]

【分布】本北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】各地の水田に分布している。佐倉市で1996年9月13日に採集された標本 (CBM BS-113322) と野田市で1997年10月19日に採集

された標本 (CBM BS-140605) と富津市で1998年3月31日に採集された標本 (CBM BS-147226) と南房総市で2001年12月6日に採集された標本 (CBM BS-183137) などがある。

【保護対策】生育地の湿地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:359 / 新千植誌 1975:402 / 千植誌 2003:488 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:73

(天野誠)



|                 |      |   |
|-----------------|------|---|
| C サウトウガラシ オオバコ科 | 2009 | B |
|                 | 2017 | C |
|                 | 2023 | C |

【種の特性】 小形の一年生草本。茎は上部に腺毛があり、高さ3～10cm。葉は対生し葉柄がなく広線形。花は8～10月に咲き淡紫色。虫媒で水散布。水田および自然的な湿地に見られる。自然な貧栄養湿地に見られるものは、秋に紅葉し萼片が4個でアカヌマソウとして区別されることがある。千葉県レッドデータブックではアカヌマソウを含む広義のサウトウガラシを指定。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】 南部を除きほぼ全域に見られ、耕地整理を行っていない水田に多い。

【保護対策】 減農薬水田を広める。稲刈り時に稲ワラを裁断して散布する耕作法では、稲刈り後に生育する多くの小形雑草が消失し、水田周辺の生物多様性維持に問題が多い。

【文献】 千植誌 2003：538, 528。  
(大場達之／天野誠)



|                  |      |   |
|------------------|------|---|
| C ゴマノハグサ ゴマノハグサ科 | 2009 | C |
|                  | 2017 | C |
|                  | 2023 | C |

【種の特性】 大形の多年生草本。大きな個体は2mを超える。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[H] ススキ群目。

【分布】 本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 河川氾濫原や半自然草地に生え、下総台地のかつての牧には多かったものと推定される。房総丘陵からの報告はない。

【保護対策】 半自然草原の保全。かつての牧の跡地の開発予定地などでは、適当な草刈り管理によって、かつての牧と同じような組成の草地が復活しているところがある。そのような草地の一部を計画的に自然公園として保全することが望まれる。

【文献】 千植誌 2003：536, 526  
(大場達之／天野誠)



|                |      |   |
|----------------|------|---|
| C ネナシカズラ ヒルガオ科 | 2009 |   |
|                | 2017 | A |
|                | 2023 | C |

【種の特性】 寄生・つる性の一年生草本。茎は、マメダオシより太く、1.5mm。花は穂状に付く。花柱は1本。虫媒で、重力散布。花期は、8月から10月。日当たりの良い里山の道端に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、ベトナム、アムール。

【県内の状況】 柏市、我孫子市、袖ヶ浦、市原市、一宮町、富津市、鹿野山、清澄山、御殿山で採集された標本がある。1999年10月30日以来、標本

は採集されていない。目視記録も、2002年12月14日、鴨川市で記録したのが最後である。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:336 / 新千植誌 1975:382 / 千植誌 2003:478 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:26

(天野誠)



|                 |      |   |
|-----------------|------|---|
| C オオマルバノホロシ ナス科 | 2009 | C |
|                 | 2017 | C |
|                 | 2023 | C |

【種の特性】 多年生草本。湿地に生える植物。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G]

【分布】 北海道、本州（関東、中部以北）。千島、サハリン。

【県内の状況】 利根川水系からの報告が多い。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：518, 512

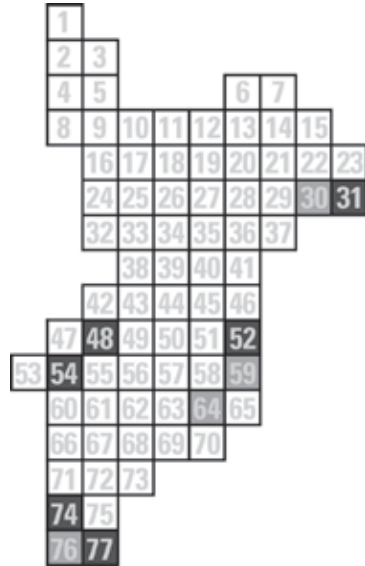
(大場達之／天野誠)



|   |                                      |       |      |   |
|---|--------------------------------------|-------|------|---|
| C | スナビキソウ                               | ムラサキ科 | 2009 | C |
|   |                                      |       | 2017 | C |
|   | <i>Argusia sibirica</i> (L.) Boehmer |       | 2023 | C |

【種の特性】高さ15～30cmの夏緑の多年生草本。海岸の砂浜に生える。莖は斜上し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、長さ3～5cm、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は白色、5裂し、花筒は短い、径7～12mmで、喉部に鱗片はない。果実はほぼ楕円形球、径約8mm。虫媒で、重力・海流散布。[G] スナビキソウ・ハマニンニク群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、シベリア。



【県内の状況】、主として安房地方に分布し、外房、九十九里、銚子の海岸にも点在する。

【保護対策】自然な砂浜を保全する。

【文献】千植誌 2003：482, 472  
(大場達之／天野 誠 追補)

|   |                            |       |      |   |
|---|----------------------------|-------|------|---|
| C | ウメモドキ                      | モチノキ科 | 2009 | C |
|   |                            |       | 2017 | C |
|   | <i>Ilex serrata</i> Thunb. |       | 2023 | C |

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[N] ハンノキ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の湿地に分布するが、庭木としても植えられるので、真の自生か否かは調査が必要。

【保護対策】自然湿地の保全。

【文献】千植誌 2003：350, 357

(大場達之／天野誠)

|   |                               |     |      |   |
|---|-------------------------------|-----|------|---|
| C | ゴマナ                           | キク科 | 2009 | C |
|   |                               |     | 2017 | C |
|   | <i>Aster glehni</i> F.Schmidt |     | 2023 | C |

【種の特性】夏緑の大形多年生草本。県内では湧水地周辺に生え、シラネセンキュウと共存することが多い。地下茎があり、茎は直立し高さ50～100cmで上部で分枝する。花は8～10月に咲き、散房状に密に頭花をつける。舌状花は白色。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州。

【県内の状況】主として県北に多いが木更津市に離れた産地がある。



【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】伊藤至 1960 千葉県でゴマナ採集。植物採集ニュース 60：13-14／千植誌 2003：598, 586

(大場達之／天野誠)

|   |                           |     |      |   |
|---|---------------------------|-----|------|---|
| C | ウラギク                      | キク科 | 2009 | C |
|   |                           |     | 2017 | C |
|   | <i>Aster tripolium</i> L. |     | 2023 | C |

【種の特性】夏緑の中形からやや大形の一年生草本～多年生草本。潮の入る湿地に群れて生え、茎は太く直立し高さ30～60cm。上部は分祀して頭花を散房状にやや密につける。舌状花は紫色。冠毛は赤紫色を帯びる。虫媒で、風および水流散布。ウラギク群網(=マリティマイ群網)。

【分布】北海道・本州・四国・九州。ユーラシア中～北部に広く分布。

【県内の状況】東京湾岸および九十九里浜の河口などに分布するが、東京湾岸の埋め立てで自然的な群落は激減し、埋め立て地の間の水路などにわずかに生き延びている。

【保護対策】自生植物が生えうる塩湿地を確保する必要がある。

【文献】千植誌 2003：598, 586  
(大場達之／天野誠)



## C フジバカマ キク科

*Eupatorium japonicum* Thunb.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | B |
| 2023 | C |

【種の特性】やや大形の多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。河川の氾濫原に生える。乾くとクマリンの香りがあり中国では蘭（蘭花）とならび蘭草とよばれ珍重されたという。ヨシ群綱。[H] 園芸店などでフジバカマとして売られているものは葉がやや厚く光沢があって、茎上部の葉も3出複葉になっていて、花の色も濃く、河原に自生するフジバカマと異なっている。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国。かつては中国から渡来したものの逸出ではないかと考えられてきたが、近年では大きな河川の氾濫原に

土着のものであるとされている。

【県内の状況】利根川流域の各地から報告がある。産地のいくつかは栽培品の逸出である可能性がある。

【保護対策】利根川上流域には自生が見られるので、千葉県でも自然的な氾濫原の植生を保全することによって自然的な再定着が期待できる。

【文献】村田源・小山博滋 1982 日本産ヒヨドリバナ属の再検討。植物分類地理 33 : 282-301 / 千植誌 2003 : 593, 582

(大場達之／天野誠)



## C オオニガナ キク科

*Prenanthes tanakae* (Koidz.) Koidz.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

【種の特性】多年生草本。湧水地周辺のハンノキ林、湿原などに生える。根茎は横走し、茎は高さ 80 ~ 150cm で直立し普通は枝分かれしない。葉は単葉で互生。茎の葉は卵状三角形で葉柄に翼がある。花は円錐花序につき、頭花は径 3.5 ~ 4cm で黄色。虫媒で、風散布。[HH] ヨシ群綱。ブナ帯植物の低地遺存要素であろう。

【分布】本州（近畿以東）。

【県内の状況】千葉県内の広い地域から記録があり、自生地では群生することが多い。現在は湿地の開発により極めて少なくなっている。

【保護対策】自然的な湿地を計画的な保護する。

【文献】浅野貞夫（1966）習志野から消えたオオニガナ。植物採集ニュース 24 : 7 / 千植誌 2003 : 646, 637

(大場達之／天野誠)



## C キクアザミ キク科

*Saussurea ussuriensis* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

【種の特性】多年生草本。茎は高さ 50 ~ 150cm。葉は単葉で互生し、茎下部の葉は長楕円形で長い柄があり、羽状に深く分裂し側裂片は 4 ~ 6 対。花は 9 ~ 10 月に咲き、花序は散房状。頭花は多数、総苞は細い筒形で長さ 10 ~ 14mm で蜘蛛毛があり、裂片は 8 列につく。筒状花は紅紫色。虫媒で、風散布。[H] ススキ群綱。

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】ミヤコアザミと同様な、よく管理されたススキ草地に生える。遺存牧野要素。八街市から鴨川市にかけて分布し、県北部には記録がない。

【保護対策】自然的な種組成を残した草原の保全を図る。多様性保全草地のような指定をして、草刈り管理などに補助金を出すなどの工夫が求められる。

【文献】千植誌 2003 : 575, 567

(大場達之／天野誠)



## C オカオグルマ キク科

*Senecio integrifolius* (L.) Clairv. var. *spathulatus* (Miq.) H.Hara

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

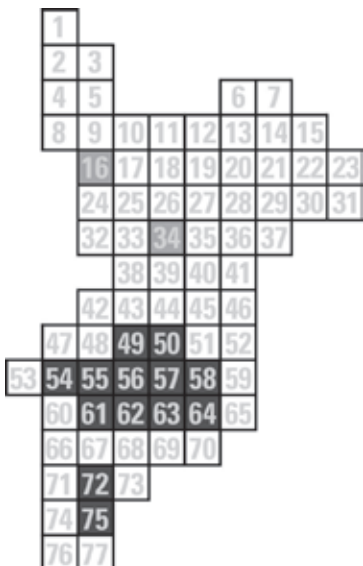
【種の特性】多年生草本、乾いた土手などに生える。全体にクモ毛がある。葉は単葉で互生し、茎基部の葉はロゼット状で長楕円形。茎は高さ 20 ~ 60cm で直立し、上部は散房状の花序となり頭花を 3 ~ 7 個つける。花は 5 ~ 6 月、舌状花は黄色。虫媒で、風散布。ススキ群綱。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】千葉市から館山市にかけて分布し、県北部には記録がない。

【保護対策】水田などの土手の刈り取り管理を正しく行い、耕地整理などの時に外来牧草などで置き換えない。

【文献】千植誌 2003 : 602, 605 (大場達之／天野誠)



|   |         |     |      |   |
|---|---------|-----|------|---|
| C | ハバヤマボクチ | キク科 | 2009 | B |
|   |         |     | 2017 | C |
|   |         |     | 2023 | C |

*Synurus excelsus* (Makino) Kitam.

【種の特性】 大形の夏緑多年生草本。明るい夏緑林、自然的なススキ草原などに生える。茎は高さ1～2m、茎の葉は基部心形またはくさび状円形。根生葉は長い柄があって長い三角形で基部はホコ状に尖る、長さ10～20cm。下面は、密に蜘蛛毛があって白色。花は9～10月に咲き、頭花は長い柄があって下向きに咲き、総苞は鐘状球形で長さ3～5cm、筒状花は紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 主として県の北半部に分布するが、清澄山などの報告もある。

【保護対策】 自生地の環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：574, 566  
(大場達之／天野誠)



|   |      |        |      |   |
|---|------|--------|------|---|
| C | ガガブタ | ミツガシワ科 | 2009 | C |
|   |      |        | 2017 | C |
|   |      |        | 2023 | C |

*Nymphoides indica* (L.) O.Kuntze

【種の特性】 浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、水散布。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、東南アジア。

【県内の状況】 下総台地の池、沼に見られる。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：461, 453

(林浩二)



|   |     |     |      |   |
|---|-----|-----|------|---|
| C | シャク | セリ科 | 2009 |   |
|   |     |     | 2017 | D |
|   |     |     | 2023 | C |

*Anthriscus sylvestris* (L.) Hoffm.

【種の特性】 大型の多年生草本。高さ、80 から 140cm。葉は2回3出複葉で、小葉は細裂する。小総苞片は存在する。周辺花の外側の2片は明らかに他の3片より大きい。果実は細長く、先が尖り、黒熟する。花期は、5月から6月。虫媒で重力散布。林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。ユーラシア中北部。

【県内の状況】 主に南総の丘陵地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:345 /  
新千植誌 1975:390 / 千植誌  
2003:422 / 改訂新版日本の野  
生植物 5 2017:391

(天野誠)



|   |        |     |      |   |
|---|--------|-----|------|---|
| C | ミシマサイコ | セリ科 | 2009 | C |
|   |        |     | 2017 | C |
|   |        |     | 2023 | C |

*Bupleurum falcatum* L.

【種の特性】 中形の多年生草本。乾いたススキ草原に生え、時に海崖の草原にも見られる。茎は高さ40～70cm。葉は単葉で互生。花は8～10月に咲き黄色。虫媒で重力散布。[H] ススキ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 千葉県南部を中心に記録されているが個体数は少ない。かつては薬用植物としての選択的採取があったものと思われる。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：424,  
414

(大場達之／天野誠)



## C ムカゴニンジン セリ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Sium sisarum* L.

【種の特性】大型の多年生草本。茎は高さ 30～100 cm。葉は羽状複葉で互生。葉腋にムカゴができる。花は 8～9 月に咲き白色で細かい。果実は卵球形。虫媒で、重力散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】県中北部の丈の高いヨシなどの湿原に生える。

【保護対策】自然的な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003：427, 416

(大場達之／天野誠)



## C サワゼリ セリ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | C |

*Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.

【種の特性】夏緑の大形多年生草本。常に水のあるような湿地に生える。茎は高さ 60～100 cm。根生葉と茎下部の葉は単状複葉で小葉は 7～9 個。花は 7～9 月に咲き白色。果実は倒卵形。[HH] ヨシ群綱。別名ヌマゼリ。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】主に県の北半部の湿原に見られるが普通ではない。

【保護対策】自然的な湿原を保全する。

【文献】千植誌 2003：426, 416

(大場達之／天野誠)



## C アシタカマツムシソウ スイカズラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | B |
| 2023 | C |

*Scabiosa japonica* Miq. var. *lasioplylla* Sugim.

【種の特性】二年～多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。マツムシソウに似て、葉は厚手で光沢があり、花時にも根生葉が残存し、花茎は低い。海崖の草地及び海に近い山の岩場や乾いた草地に生える。イソギクハチジョウススキ群集。[Th]。別名ソナレマツムシソウ。

【分布】本州（千葉、神奈川、静岡）。

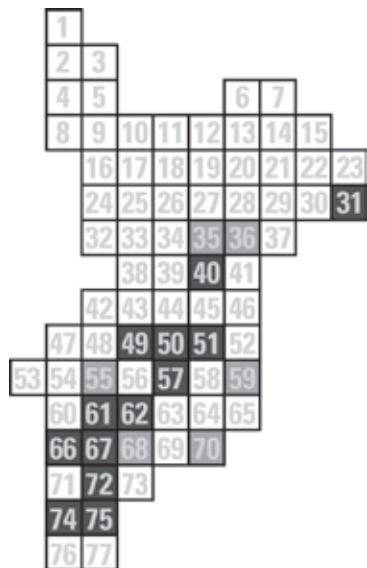
【県内の状況】銚子市から記載され、その後富津市、君津市、鋸山などからも見つかったが数は少ない。鹿野山から採集された標本もある。また従来マツムシソウあるいはソナレマツムシソウとされていた千葉県産のマツムシソウはすべてアシタカマツムシソウに当たる。

アシタカマツムシソウがこの類に対する名前として最も早いという。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】中井猛之進 1944 植物研究雑誌 19：277 / 須山知香・杉野孝雄・植田邦彦 2008 アシタカマツムシソウ（マツムシソウ科）のレクトタイプ選定とソナレマツムシソウ。植物研究雑誌 83：246-252。/ 須山知香 2007 2006 年度植物地理・分類学会奨励賞受賞記念論文：東アジア産マツムシソウ属（マツムシソウ科）の系統分類学的研究。植物地理・分類研究, 54:105-126。/ 千植誌 2003：551, 560

(大場達之／天野誠)



## D ネズ ヒノキ科

*Juniperus rigida* Siebold & Zucc.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑中高木。乾いた明るい尾根筋の林に生えアカマツ二次林などにも見られる。葉は針葉で互生。風媒で鳥散布。[N～M]ツガ群団。

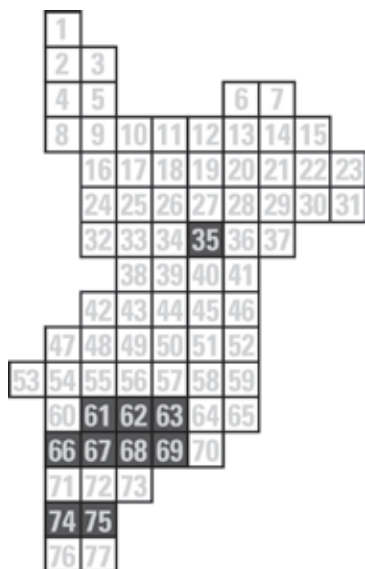
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】主に高宕山周辺および南房総市に分布。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：67, 83

(齊木健一)



## D マツブサ マツブサ科

*Schisandra repanda* (Siebold & Zucc.) Radlk.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑藤本。雌雄異株。葉は単葉で互生し枝先に集まってつく。花は5～6月に咲き黄白色。果実は藍黒色に熟す。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[M]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】市原市以南の房総丘陵に分布。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：182, 190

(大場達之／天野誠)



## D オオシマハイネズ ヒノキ科

*Juniperus taxifolia* Hook. & Arn. var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑小低木。葉は針葉で互生。ハイネズとは葉の先端が硬くないこと、気孔条が葉に沈み込まないこと等で区別される。風媒で、鳥散布。[N]

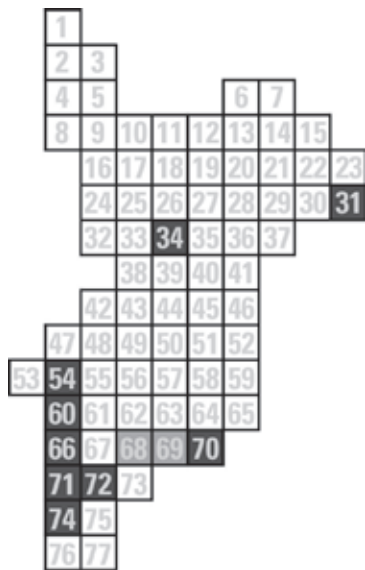
【分布】本州（房総半島、伊豆七島、東海道沿岸、志摩半島、紀伊半島）。

【県内の状況】富津岬、洲崎、犬吠埼に分布。

【保護対策】分布地域、個体数とも減少傾向にあり、生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：79, 83

(斎木健一)



## D センリョウ センリョウ科

*Sarcandra glabra* (Thunb.) Nakai

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。[H] カクレミノ属群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】県北部のものは栽培品からの逸出と考えられる。千葉県では正月の切花用に大量に栽培されている。

【保護対策】真の自生か否か調査が必要。

【文献】千植誌 2003：204, 210

(大場達之／天野誠)



# D ヒロハオガタマノキ モクレン科

*Michelia compressa* (Maxim.) Sarg. f. *latifolia* Okuyama

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で倒卵形で互生。花は3月頃に咲き、クリーム白色。虫媒で、重力散布。神社に植えられているものは葉が長楕円形で細長い狭義のオガタマノキで、西南日本原産と考えられる。千葉県に自生と考えられるのは葉が短いヒロハオガタマノキである。[MM] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】清澄山・南房総市高塚山などに知られる。

【保護対策】無用の伐採を避ける。

【文献】千植誌 2003：181,189  
(大場達之／天野誠)



# D ミズオオバコ トチカガミ科

*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】沈水性の一年生草本。かつては水田に普通な雑草であったが、除草剤などによって極端に個体数が減少し、谷津奥の湧水の多い水田などに限られている。葉は単葉で根生しロゼット状になる。葉身は薄くしわがあり、倒披針形から卵心形で長さ10～25cm、幅2～15cm。葉の大形のものをオオミズオオバコとして区分することがある。花は両性、花茎は根生し花は水面で咲く。花弁は白から淡紅色。虫媒で、水散布。ヒツジグサ群団。[Th]

【分布】本州～琉球。朝鮮、中国、ウスリー、インド、オーストラリア。

【県内の状況】県内全域に知られる。

【保護対策】水田周辺の水質を改善する。

【文献】伊藤至（1969）手賀沼のオオミズオオバコ。植物採集ニュース 45：66。／千植誌 2003：655,661  
(大場達之／天野誠)



# D ササバモ ヒルムシロ科

*Potamogeton malaianus* Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】大型で沈水性の多年生草本。湖沼、河川、水路等に生育する。葉は単葉で互生。水中茎は3mを越えることもある。陸生形ではヒルムシロに酷似するが葉の先端は鋭頭で芒状に突出するので識別できる。水媒で、水散布。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。東アジア、インド、ニューギニア。

【県内の状況】県北部の河川、池沼を中心に多くの生育地が知られていたが、河川改修や水路のコンクリート護岸の普及によって生育適地が

少なくなり、産地は急減している。

【保護対策】河川や池沼の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：478／角野康郎 1994 日本水草図鑑：37／千植誌 2003：669,663／林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況。千生誌 58(1):1-6

(谷城勝弘)



# D ヤナギモ ヒルムシロ科

*Potamogeton oxyphyllus* Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。主に流水中に生える。茎は、細く分枝する。葉は全て沈水葉で、線形。穂状花序は5から9個の花を付ける。1本の雄しべ、雌花は、1本の雌しべからなる。虫媒で、重力散布。小川や水路に生育する。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】主に北総の中部から南総の中部に分布している。

【保護対策】生育地の小川を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:432／新千植誌 1975:479／千植誌 2003:660／改訂新版日本の野生植物 1 2016:133

(天野誠)



## D コアマモ アマモ科

*Zostera japonica* Asch. & Graebn.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

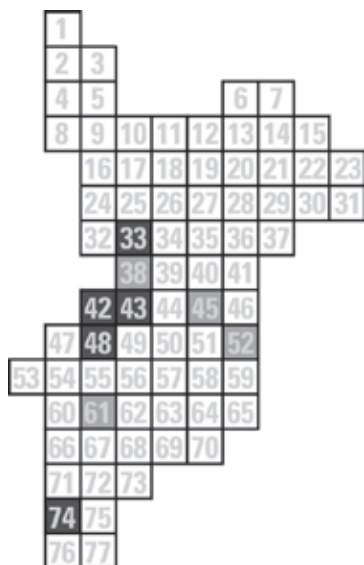
【種の特性】多年生草本。根茎は節から2本の根を出す。葉は単葉で互生。雌雄同株。葉を含めたシュートの長さは10～40cm、幅1～4mm、平行脈は3本、先端縁辺部に鋸歯がない。肉穂花序は葯隔付属突起を持つ。5～8月に花序をつけて種子ができる。干潟、河口域、静かな入り江の潮間帯下部の砂地に生育する。水媒で水散布。[HH] コアマモ群集。

【分布】北海道、本州（太平洋沿岸）。北太平洋の日本列島沿岸域と北アメリカ西海岸のみに分布。琉球からヴェトナムにかけての地域にも分布するとされたが、最近これは別の亜種に区分された。

【県内の状況】干潟、静かな入り江に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Ascherson & Graebner 1907 / Kuo, J. & McComb, A. J. 1989 Seagrass taxonomy and, structure and development. In : Larkum, A. W. D., McComb, A. W. D. & Shepherd, S. A. (eds.) Biology of seagrass : 6-56. Elsevier / 千植誌 2003 : 657, 662 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9,34,35 (宮田昌彦)



## D アマモ アマモ科

*Zostera marina* L.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

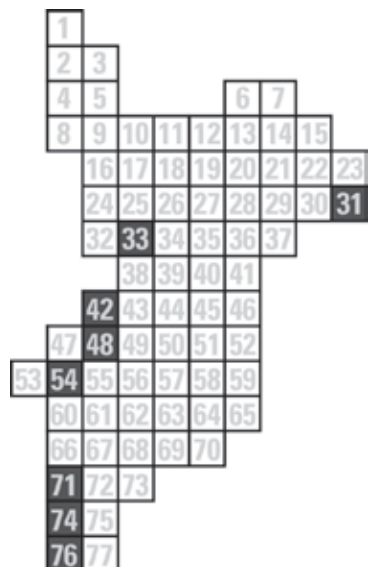
【種の特性】多年生草本。節から多数の根を出す。葉は単葉で互生。雌雄同株。葉を含めたシュートの長さは50～120cm、幅は3～8mmで5～7本の平行脈をもち先端縁辺部に鋸歯がない。開花期は4～7月で主茎の先端に頂生する花序をつけ種子をつくる。肉穂花序は葯隔突起を持たない。種皮には稜があり表面は平滑。波の穏やかな入り江、干潟の漸深帯上部の砂地に生育する。水媒で、水散布。[HH] アマモ群集。

【分布】北海道・本州（太平洋沿岸）。北半球のみに分布。

【県内の状況】干潟、静かな入り江に生育する。

【保護対策】干潟および浅海の砂泥地を攪乱しないようにする。

【文献】Miki, S. 1933 Bot. Mag. Tokyo 47 : 842-862 / 千植誌 2003 : 657, 662. / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 8,26-27 (宮田昌彦)



## D アマナ ユリ科

*Amana edulis* (Miq.) Honda

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】小型の多年生草本。地下に球茎があり、春二枚の白っぽい葉を二枚地表に広げ、その中央から花茎を出す。花茎の上部に対生する苞葉をつけ、1個の白い花を開く。陽光を受けて開き、日がかけると閉じる。やや湿った林の下、林縁などに群れて生える。虫媒で、虫散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】県の北部に多く分布する。

【保護対策】鑑賞目的での採集をしない。

【文献】千植誌 2003 : 688, 682 (大場達之 / 天野誠)



## D スカシユリ ユリ科

*Lilium maculatum* Thunb.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

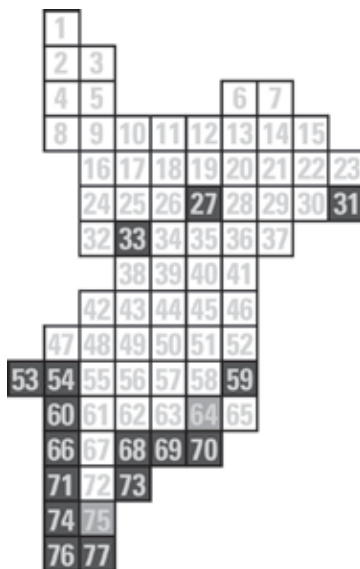
【種の特性】中型の多年生草本。海崖の前線にイソギク、ハチジョウススキなどと共に生える。葉は単葉で互生。斜面に下垂して、6～7月ごろに橙赤色の花を上向きに咲かせる。花被片の基部に隙間がある。虫媒で、風散布。[G] ワダン・イソギク群綱。

【分布】本州。

【県内の状況】海岸の崖にイソギクなどと共に生えるが、砂浜の後背地に生えることもある。外洋に面したところに多いが、東京湾奥の千葉市で記録されたこともある。かつては現在よりも広い範囲に分布していたと考えられる。

【保護対策】園芸目的での採集をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 687, 681 (大場達之 / 天野誠)



|   |                 |      |   |
|---|-----------------|------|---|
| D | ホソバシュロソウ シュロソウ科 | 2009 | D |
|   |                 | 2017 | D |
|   |                 | 2023 | D |

*Veratrum maackii* Regel var. *maackioides* (Loen) H.Hara

【種の特性】 中型からやや大型の夏緑多年草。根生葉は線状楕円形で縦皺が目立つ。株の基部に繊維質が集まってつく。花は秋の初めに咲きやや褐色を帯びた紫色で、散房状の花序に群がりつく。虫媒で、風散布。明るいコナラ林や林縁に生えるが群がって生えることはない。

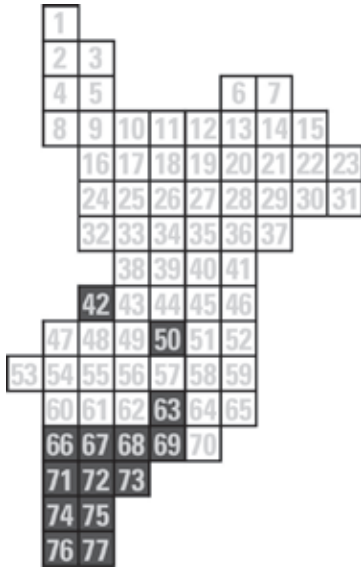
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国北部、プリモリア。

【県内の状況】 房総半島南部に多い。北限は袖ヶ浦市と考えられる。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：685, 678

(大場達之／天野誠)



|   |                |      |   |
|---|----------------|------|---|
| D | オオバギボウシ キジカクシ科 | 2009 | D |
|   |                | 2017 | C |
|   |                | 2023 | D |

*Hosta montana* F.Maek.

【種の特性】 大型の多年生草本。葉は単葉で互生。苞葉が平坦で、開出して星状になる花は淡紫色。虫媒で風散布。[H]。ススキ群綱

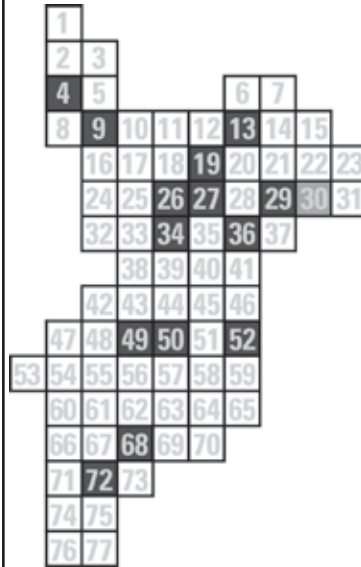
【分布】 北海道・本州（太平洋側）・四国・九州。

【県内の状況】 県北部を中心に稀。

【保護対策】 鑑賞目的あるいは食用目的などの採取を控える。

【文献】 千植誌 2003：686, 679

(大場達之／天野誠)



|   |                |      |   |
|---|----------------|------|---|
| D | ヤマラッキョウ ヒガンバナ科 | 2009 | D |
|   |                | 2017 | D |
|   |                | 2023 | D |

*Allium thunbergii* G.Don

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は単葉で円筒状のものと平坦な個体とがあり、互生。花は秋に咲き紅紫色で、花茎の咲きに球状に集まって咲く。虫媒で、重力散布。[G] ススキ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 かつては谷津田の土手などに普通であったが、草刈り管理などが簡略化されて、草丈の高い草が生い茂り、少なくなっている。

【保護対策】 鑑賞目的の採集をしない。

【文献】 千植誌 2003：686, 680

(大場達之／天野誠)



|   |         |      |   |
|---|---------|------|---|
| D | シラン ラン科 | 2009 | C |
|   |         | 2017 | C |
|   |         | 2023 | D |

*Bletilla striata* (Thumb.) Rchb.f.

【種の特性】 中型の多年生草本。湿った日当たりのよい崖に生えるほか、チガヤ草原、土手などにも生える。葉は単葉で互生し並行した縦脈が隆起して目立つ。花は紅紫色で大きく目立つ。虫媒で、風散布。[G] シランススキ群集。(シロバナシランを含む)

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】 ほぼ全県に見られるが、長く放置された造成宅地などに生えるものは栽培品からの逸出と考えられる。本来の自生環境は湿った溪谷の崖である。

【保護対策】 自生環境からの採取・販売は規制されるべきである。

【文献】 千植誌 2003：919, 908

(大場達之／天野誠)



## D エビネ ラン科

*Calanthe discolor* Lindl.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の常緑多年生草本。根茎に偽鱗茎が連なって、枝分かれし、複数の株が集まっていることが多い。葉は単葉で互生。花は4～5月に咲く。花被片は赤褐色で、唇弁のみ白色～淡紅色であるが、色調には変異が多い。虫媒で、風散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】ほぼ全域に分布するが、沖積低地にはほとんど見られない。かつては竹林、スギ林の下などに多かったが、園芸用の選択採取で著しく減少した。

【保護対策】自生株の採取・栽培・販売などをやめるべきである。園芸的に栽培されているものは、園芸の見地からの選択が働いており、また他のエビネ属との交雑が進んでおり、このような株を野外に植え戻すことは、本来の地域的な遺伝子組成を破壊することにつながるので、栽培品の野外への植え戻しは極めて慎重に行うべきであろう。

【文献】千植誌 2003：920, 909  
(大場達之／天野誠)



## D ギンラン ラン科

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】小型の多年生草本、高さ15～30cm。葉は単葉で互生し、最上部の葉は花序より短い。花は5月初めに咲き白色、唇弁の距は明らかに、斜め下方に突出。虫媒で、風散布。[G] ブナ群綱。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】かつてはクヌギ・コナラの二次林の林床に多かったが、薪炭林としての利用がなくなって林床にアズマネザサが密生して、著しく個体数が減少したが、近年、都市域のクロマツ、マテバシイ、ス

ダジイなどの植栽された林にサガミランと共に多くの個体が見られるようになっている。

【保護対策】鑑賞目的などの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003：914, 904  
(大場達之／天野誠)



## D ナツエビネ ラン科

*Calanthe reflexa* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。照葉樹林あるいは照葉樹の混交するモミ林などに生える。葉は単葉で互生。葉の基部は相互に重なりやや筒状になる。葉の色はエビネよりも濃い緑色。花は8月。花被片は細く尖り、紅紫色を帯びた白色で、唇弁は濃い紅紫色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮（済州島）、中国南部、台湾。

【県内の状況】分布は房総丘陵の南部に集中しているが、個体数は少ない。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：921, 909  
(大場達之／天野誠)



## D キンラン ラン科

*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。花は5月初めに咲き黄色で、花被片は平開する。ギンラン、ササバギンランなどの同属の他の種類に比べて、全体が大きく、葉の幅が広く、緑の色が濃い。虫媒で、風散布。ブナ群綱。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】生育地における個体数の消長は、かなり激しく、過去には非常に密度の高い群落が観察されている（袖ヶ浦市）。コナラの二次林などの夏緑林に生えるが、最近都市の植栽されたスダジイ、マテバ

シイ、クロマツなどの林に生えることが観察されている。

【保護対策】鑑賞目的の採取は慎みたい。生育には共存する菌類が必要で、庭に植えても育たない。

【文献】千植誌 2003：914, 904  
(大場達之／天野誠)



## D ササバギンラン ラン科

*Cephalanthera longibracteata* Blume

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。根茎はキンラン、ギンランよりも深いところに位置している。葉は単葉で互生し、最上部の葉は花序より長い。茎や葉の縁、脈上などに細突起状の毛が多い。花は5月中旬に咲き、白色で、わずかな期間のみ平開する。距はやや長い、個体により変異がある。虫媒で、風散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、千島、朝鮮、中国。キンラン、ギンランよりも北方あるいは高標高のところに分布する傾向がある。

【県内の状況】クヌギ・コナラの二次林、竹林などに生えキンラン、ギンランより少ない。

【保護対策】鑑賞目的などの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 914, 904

(大場達之／天野誠)



## D ツチアケビ ラン科

*Galeola septentrionalis* Reichb.f.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】大型の多年生草本。湿った暗い腐植質の多い、竹林、スギ林、照葉樹林などに生える。菌根性。葉は無葉緑。茎は褐色で直立し、多くの枝を分かち、夏に多数の黄褐色の花をつける、果実は曲がったウリ状で赤色で目立つ。虫媒で、風散布。ナラタケと共生。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】千葉県では山武市以南に分布し、北総からの観察例はない。

【保護対策】生育地を良好な状態に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 916, 905  
(大場達之／天野誠)



## D サイハイラン ラン科

*Cremastra appendiculata* (D. Don) Makino

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の常緑多年生草本。地表近くに球状の偽茎を連ね、群がって生える傾向がある。葉は単葉で互生。花は花序のひとつの側に集まって垂れて咲き、紅紫色を帯びた褐色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、サハリン、台湾、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】竹林、やや湿った夏緑林とくにケヤキ林などに生える。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 921, 909

(大場達之／天野誠)



## D シュスラン ラン科

*Goodyera velutina* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

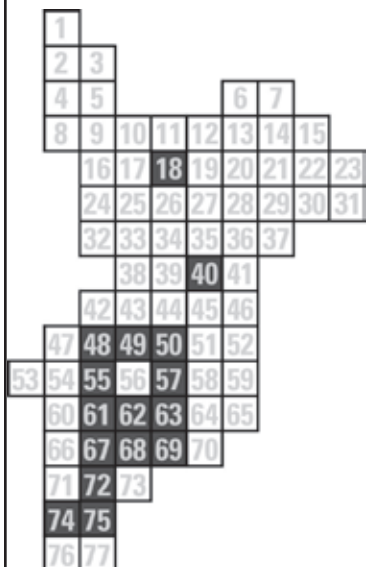
【種の特性】小型の多年生草本。湿った照葉樹林の林床に生える。地下茎は地表を長く這って枝分かれして群生する。茎の先端は直立して先端に葉が集まり、その中央から花茎をだす。花は9月に咲き、わずかに紅色を帯びた白色。葉は単葉で互生し、黒みを帯びた濃緑色でピロイド状で中肋は白色。虫媒で、風散布。[H] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵に多くの産地が知られ、北総には極めて稀である。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 918, 907  
(大場達之／天野誠)



## D クモキリソウ ラン科

*Liparis kumokiri* F.Maek.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】 小型の多年生草本。林縁、路傍、スギ林など様々なところに生え、林縁の攪乱されたところを好む。葉は単葉で互生。花は7月に咲き淡緑色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。千島。

【県内の状況】 県内各地に分布する。この仲間ではコクランに次いで普通である。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。量的には多いが、地域の物産店などで山取品を売っていることが多く、衰退する可能性がある。

【文献】 千植誌 2003：920,908  
(大場達之／天野誠)



## D ジョウロウスゲ カヤツリグサ科

*Carex capricornis* Meinsh.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂は幅1.5～3.0mm、長さ15～18mm、喙が長く先が著しく2裂する果胞をつける。[HH]

【分布】 北海道・本州（関東地方）。東アジア。

【県内の状況】 手賀沼、印旛沼などの利根川流域を中心に生育するが、近年、千葉市、佐倉市の他、九十九里浜平野域にも群生地が確認されるようになった。水鳥による種子散布が分布拡大の原因と考えられる。

本種は遷移の初期群落に見出されることが多く、遷移の進行にともなってヨシ、ヒメガマなどの大型草本が侵入すると消滅する。

【保護対策】 水辺と湿地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌（1958）：409／新千植誌（1975）：455／千植誌 2003：854,848

(谷城勝弘)



## D ハタガヤ カヤツリグサ科

*Bulbostylis barbata* (Rottb.) Kunth

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】 一年生草本。沿海地の日当たりの良い砂地に生える。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。花序は頭状で多数の無柄の小穂からなる。[Th]

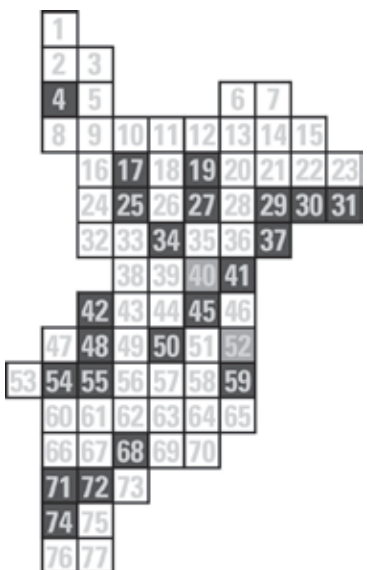
【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、インドネシア、オーストラリア。

【県内の状況】 海岸松林の明るい林床や林縁などの砂地に生育する。内陸の造成地などにも稀に出現することがある。

【保護対策】 海岸松林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：408／新千植誌 1975：454／折目 1993 富里の植物：126／千植誌 2003：866

(谷城勝弘)



## D ツクバスゲ カヤツリグサ科

*Carex hirtifructus* Kük.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で、重力散布。横走する根茎をもつ。千葉県のカツバスゲは果実の結実率が極めて低く、栄養繁殖を中心とした特異な個体群である。[H]

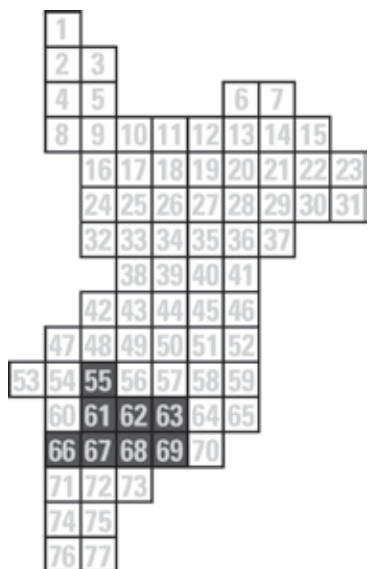
【分布】 本州・四国・九州。太平洋側の低山地。

【県内の状況】 清澄山系と高宕山系に生育する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：841,845

(谷城勝弘)



# D オキナワジュズスゲ カヤツリグサ科

*Carex ischnostachya* Steud. var. *fastigiata* T. Koyama

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特異】多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。ジュズスゲに似るが、葉幅は狭く、基鞘は赤みが強く、果胞は長さ3mm程度で小さい。風媒で重力散布。[H]

【分布】本州（関東）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】確認の記録は県北東部に多いが、古くは清澄山で採られた標本もある（1935 CBM BS-166842）。ジュズスゲ var. *ischnostachya* と誤認されやすいため本県での詳しい分布は今後の精査にまたれる。

匝瑳市のスギ林には広範に及ぶ群落が形成されている。

【保護対策】生育の適地となる疎林ではアズマネザサの侵入が顕著な箇所が増えている。定期的に刈り取りをしてササ類の繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：164 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：853,847

（谷城勝弘）



# D チュウゼンジスゲ カヤツリグサ科

*Carex longerostrata* C.A.Mey. var. *pallida* Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特異】多年生草本。明るい夏緑林～草原に生える。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北部のコナラ、クヌギなどを中心とする落葉樹林のやや明るい疎林の林床や林縁に疎らに生育する。

【保護対策】落葉樹林の放置による群落の遷移を防ぐために刈り取り等の管理を継続することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：840,828

（谷城勝弘）



# D オオアオスゲ カヤツリグサ科

*Carex lonchophora* Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特異】多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。アオスゲ *C. leucochlora* より大型になり、苞鞘は2～3cmと長く、基部は糸状に分解する。[H]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）の植物目録に千葉市で記録されている。近年、県北部一帯に点在することが確認されている。

【保護対策】生育地では定期的な刈り取り管理を実施し、大型多年草の侵入を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：161 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：162 / 折目 1993 富里の植物：110 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：836,826

（谷城勝弘）



# D ヒメシラスゲ カヤツリグサ科

*Carex mollicula* Boott

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特異】小型の多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。根茎あり。葉裏は表面と同じ緑色。小穂は無梗で接近してつく。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・伊豆諸島。サハリン、朝鮮、中国。

【県内の状況】主として県中南部の丘陵地の沢沿いや山間の湿潤な草地に疎らに生える。本県ではまとまりのある群落形成はなく、個体数は少ない。北総では成田市で確認されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：833,824

（谷城勝弘）



## D ヒゲスゲ カヤツリグサ科

*Carex oahuensis* C.A.Mey. var. *robusta* Franch. et Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。海岸性。葉は単葉で互生。葉は硬く、幅約1cm。基部は糸状に分解する。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球・伊豆諸島。朝鮮、中国。

【県内の状況】銚子市、県南部の海岸の岩崖地に生育する。潮風の当たる向陽地にしばしば群生する。

【保護対策】生育適地となる海岸草地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：409 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：840,828. / 岩瀬・鶴岡・谷城・久保田 2006 犬吠崎の植物. 千生誌 56(1): 1-12 (谷城勝弘)



## D ヒメゴウソ カヤツリグサ科

*Carex phacota* Spreng. var. *gracilispica* Kük.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞に細乳頭がある。雌小穂は細く5～7mm。基部は淡色または黄褐色。風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】九十九里平野域に雌鱗片の芒が長く果胞表面には乳頭状突起を密布するホナガヒメゴウソ var. *phacota* が分布し、県中～北

部台地の斜面下には芒が短く乳頭状突起が疎らなヒメゴウソ var. *gracilispica* が分布する。両変種とも個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：412 / 新千植誌 1975：457 / 谷城・細川・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼. 千葉県自然環境保全学術調査報告書：11-101 / 千植誌 2003：831,822 (谷城勝弘)



## D ホナガヒメゴウソ カヤツリグサ科

*Carex phacota* Spreng.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。雌鱗片の芒が長く、果胞表面には乳頭状突起を密布する。雌小穂は細く5～7mm。基部は淡色または黄褐色。ヒメゴウソより、穂が長い。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州、四国、九州。東アジア。

【県内の状況】九十九里平野域に分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】日本カヤツリグサ科植物図譜 2011 188-189 (天野誠)



## D タカネマスクサ カヤツリグサ科

*Carex planata* Franch. & Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。森林または林縁の湿地に生育する。風媒で、重力散布。葉は単葉で互生。果胞は著しく扁平、上部まで狭い翼あり。葉幅1.5～2.5mm。県内では6月以降完熟となり、ほかのスゲ属より遅い。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県中南部の丘陵域の谷間や疎林の湿所に生育する。

【保護対策】湿地や落葉樹を主体とする疎林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：412 / 新千植誌 1975：458 / 千植誌 2003：829,804 (谷城勝弘)



# D シオクダ カヤツリグサ科

*Carex scabrifolia* Steud.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性または抽水性（海岸の砂泥地）。葉は単葉で互生。風媒で水散布。長い走出枝あり。葉は細く、幅1.5～3.0mm。小穂は1～2cm。[G] シオクダ群集。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】河口や海岸の湿地に生える。外房に多く内房には稀である。一宮川には県内最大の広範な群落が存在する。

【保護対策】本種の生育適地としての河口部の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 412  
／新千植誌 1975 : 458. /  
千植誌 2003 : 854,847 /  
谷城勝弘 2005 利根川河  
川敷の植物. 千生誌 55(1):  
9-16

(谷城勝弘)



# D タガネソウ カヤツリグサ科

*Carex siderosticta* Hance

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。北部台地では北側の斜面に生育する傾向がある。葉幅広く、単葉で互生。風媒で重力散布。根茎は横走する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内全域に点在する。葉が無毛のケナシタガネソウ f. *glabra* Ohwi et T. Koyama が松戸に記録される。

【保護対策】アズマネザサ等の大型植物の侵入による衰退箇所が増えている。刈り取り管理を継続し大型種の生育を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 843

(谷城勝弘)



# D センダイスゲ カヤツリグサ科

*Carex sendaica* Franch.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。森林性または海岸性。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。ナキリスゲ (var. *lenta*) に似るが、長い地下走出枝をもつ。[H]

【分布】本州・四国・九州。済州島、中国。

【県内の状況】初め銚子市で確認され（1990.10.21 CBM BS-146954）、その後、南房総沿岸域のほか富里市、市原市など内陸域でも発見された。海岸線域（かつての海退以前の海岸線域を含む）には生育地が連続すると推測される。

【保護対策】海岸の松林、草地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992  
調査会目録 : 163 / 折  
目 1993 調査会目録 :  
139 / 折目 1993 富里の  
植物 : 130 / 谷城勝弘  
1995 調査会目録 : 116  
／谷城勝弘 1995 千葉県  
のスゲ属植物. 新版千葉  
県の生物 : 37-50 / 千植  
誌 2003 : 834,824

(谷城勝弘)



# D オニナルコスゲ カヤツリグサ科

*Carex vesicaria* L.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で、水散布。低地遺存ブナ帯要素。[HH]

【分布】北海道・本州。朝鮮、サハリン、シベリア、北米。

【県内の状況】利根川流域とその水系及び栗山川流域の湿地、河川敷に生育する。多古光湿原に大きな群落がある。近年は放置によってヨシが繁茂して衰退の著しい箇所が増している。

【保護対策】刈り取り、野焼きなどの管理を継続し、ヨシの繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 458 /  
谷城勝弘 1987 栗山川中流部の  
湿原. 千葉県自然環境保全地域  
等適地調査報告書 : 265-291 /  
岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山  
川中流部の湿原. 千葉県自然環  
境保全学術調査報告書 : 7-56 /  
千植誌 2003 : 854,848

(谷城勝弘)



## D ヒトモトススキ カヤツリグサ科

*Cladium chinense* Nees

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】大型の常緑多年生草本。海岸性（湿地性または抽水性）。葉は単葉で互生。風媒で付着散布。葉は剛強で、歯牙あり。小穂は著しく多数。ヒトモトススキ群集。[HH]

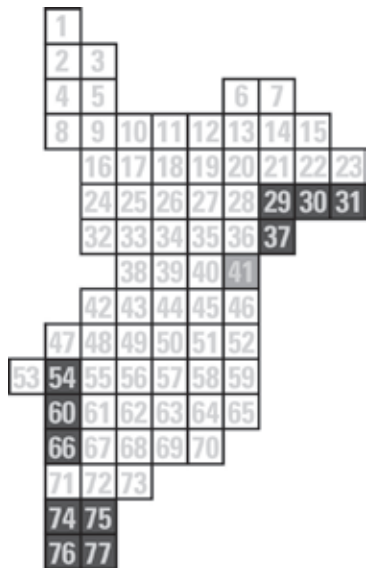
【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】太平洋側の沿岸と富津市以南の東京湾沿岸に記録がある。現在生育が認められる所は少ない。海水の出入りする河口部の湿地や潟湖の岸辺に生育するが、そのような場所での自然環境の改変が近年は特に著しい。特異的な生育地としては旭市や横芝光町などのかつて海岸線域となっていた時代の遺存と判断されるものがある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：413／新千植誌 1975：458／千植誌 2003：857,849

(谷城勝弘)



## D カンエンガヤツリ カヤツリグサ科

*Cyperus exaltatus* Retz. var. *iwasakii* (Makino) T.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は著しく扁平。鱗片の先端は凸形反曲し、長さ1.7～2,2mm。果実は広楕円形。風媒で水散布。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】利根川河畔および印旛沼、手賀沼周辺に分布する。利根川沿いの造成湿地には大群落をなすことがある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。群生地については、定期的に表土の攪乱や刈り取りなどの管理を行って群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】伊藤至 1964 佐原大橋（茨城県側）付近にカンエンガヤツリ採集。植物採集ニュース 12：5-6／伊藤至 1964 千葉県のカンエンガヤツリ。千生誌 14(2)：50-52／新千植誌 1975：459／千植誌 2003：897,891

(谷城勝弘)



## D イヌクグ カヤツリグサ科

*Cyperus cyperoides* (L.) O.Kuntze

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。草地に生える。葉は単葉。小穂は多数で花軸に開出してつく。茎の基部は肥厚する。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州（関東南部、近畿南部、中国地方）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インドネシア、インド、アフリカ。

【県内の状況】県南部の沿岸域の草地に点在する。個体数は少ない。

【保護対策】沿岸域の草地を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：894,886

(谷城勝弘)



## D セイタカハリイ カヤツリグサ科

*Eleocharis attenuata* (Franch. & Sav.) Pall.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。刺針状花被片は下向きに粗造。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ニューギニア。

【県内の状況】台地の斜面下や丘陵地の山間の湿地に生育する。刺針状花被片が平滑なチョウセンハリイ f. *leviseta* H.Hara は、県内では初め多古町で確認され（1989.7.16 CBM BS-134109）、後に横芝光町、山武市などにも分布が判明した。チョウセンハリイは低平地の湿地に分布

し、セイタカハリイとは分布域が重複しない。

【保護対策】生育地とその周辺を含む湿地を保全することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 千葉県のチョウセンハリイ。スゲの会会報 3：4-7／谷城勝弘 1993 調査会目録：252／谷城勝弘 1995 調査会目録：118／千植誌 2003：877,888／谷城・森 2007 内浦山自然環境保全地域の植物相。千葉県自然環境調査報告書。千葉県環境部自然保護課 23-40

(谷城勝弘)



# D ヒメハリイ カヤツリグサ科

*Eleocharis kamtschatica* (C.A.Mey) Komar.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。地下走出枝あり。茎は径1～1.5mm。小穂は暗赤紫色。果実は黄褐色で、刺針は下向き粗造。風媒で、水散布。[Th]

【分布】北海道・本州・九州。サハリン、カナダ、アラスカ、北米。

【県内の状況】利根川流域と九十九里平野の低湿地に点在する。九十九里平野域には刺針が退化したクロハリイ *f. reducta* Ohwi が多い。

【保護対策】大型草本の刈り取りを継続するとともに定期的に表土を攪乱させるなどの遷移を抑える管理を行うことが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 新千植誌 1975：460 / 千植誌 2003：867,871

(谷城勝弘)



# D ノテンツキ カヤツリグサ科

*Fimbristylis complanata* (Retz.) Link

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。無毛。鱗片は長さ3mm。柱頭3。ヒメテンツキ *F. autumnalis* に似るが、全体に大型で硬い。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾。

【県内の状況】県中北部の低湿地に多数の生育地が知られていたが、本種の生育に適した湿地が急減し、既知産地の多くは消滅した。成東・東金食虫植物群落の他、長生村、銚子市、旭市、横芝光町に少数個体が現存する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 新千植誌 1975：461 / 千植誌 2003：864,852

(谷城勝弘)



# D スジヌマハリイ カヤツリグサ科

*Eleocharis valleculosa* Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。地下走出枝あり。茎は縦に走る条が明らかで、全体に灰緑色を帯びる。果実の2-3倍の長さの刺針をもつヒゲスジヌマハリイ *form. setosa* (Ohwi) Kitagawa は九十九里平野に多い。[HH]

【分布】本州・九州。確認の記録は少ない。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では初め成田市の利根川河川敷で確認された(1989.4.22 CBM BS-136149)。剛強な根茎を伸ばして繁殖するので、水田の強害草となる危険性がある。

【保護対策】水田に侵入しないように管理する。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：176 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：168 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：252 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：122 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物・袖ヶ浦の植物：22-44 / 千植誌 2003：867,872

(谷城勝弘)



# D クグテンツキ カヤツリグサ科

*Fimbristylis dichotoma* (L.) Vahl *f. floribunda* (Miq) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。葉幅2～4mm。無毛。テンツキに似るが、より大型で質も厚い。小穂は数個が集まってつく。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。

【県内の状況】安房地域中心に低地や山間の湿地、水田の畦に生育する。館山市には個体数が多い。長南町の記録もある。県南部域の湿地の調査は不十分であり、精査すればさらに分布域が広がるものと思われる。

【保護対策】既知生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：416 / 新千植誌 1975：461 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：117 / 千植誌 2003：865

(谷城勝弘)



一般保護

D

## D イソヤマテンツキ カヤツリグサ科

*Fimbristylis ferruginea* (L.) var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。潮しづきのかかる磯、浜の湿った場所に生育する。葉は単葉で全縁。全体に硬く、花序は枝分かれせず、～25個の小穂をつける。鱗片は細毛がある。風媒で水散布。[H] イソヤマテンツキ群集

【分布】本州（千葉県、石川県以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】沿岸部に点在する。基盤の安定した磯に生育することが多いが、海岸造成に伴って攪乱された砂地に群生することもある。

【保護対策】海岸域の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：865,870

（谷城勝弘）



## D オオフトイ カヤツリグサ科

*Schoenoplectus lacustris* (L.) Palla

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性または抽水性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。フトイに似るが、根茎はより太く、赤みが強い。柱頭は3。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】九十九里平野、袖ヶ浦市等に確認される。過去のフトイ *S. tabernaemontani* Gmel の記録にはオオフトイが混同されている可能性がある。分布状況の詳細は今後の精査にまたれる。

【保護対策】生育地の環境（湿地）を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：172 / 谷城・小野沢 1994

坂田城跡の自然。千葉県自然環境

保全学術調査報告書 / 谷城勝弘

1995 調査会目録：118 / 谷城勝弘

1996 調査会目録：118 / 谷城勝弘

1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦の植物：22-44

／千植誌 2003：879,874

（谷城勝弘）



## D トネテンツキ カヤツリグサ科

*Fimbristylis stauntonii* Deb. & Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。鱗片は2.0～2.5mm。果実は狭長楕円形で0.8～1.0mm。花柱は宿存性。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】利根川水系と九十九里平野中南部を中心に分布する。生育適地は遷移の初期群落内で、遷移の進行に伴う大型草本の侵入とともに消滅する。千葉県のトネテンツキと称されるものには柱頭が3分岐のものと3分岐と4分岐の混在するものがある。後者は、これま

でに認識されていない新たな分類群の可能性が高い。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：417 / 新

千植誌 1975：462 / 岩瀬・村田・

谷城 1989 利根川沿いの造成湿

地の植物。千生誌 38(2)：61 /

谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺

と湿地の植物。袖ヶ浦の植物：

22-44 / 千植誌 2003：862,851

（谷城勝弘）



## D タタラカンガレイ カヤツリグサ科

*Schoenoplectiella mucronata* (L.) J.Jung & H.K.Choi  
var. *tatarana* (Honda) Yashiro

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。茎は狭い三翼があり、果実に横しわがある。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】県内では初め我孫子市で確認された（1988.10.2 CBM BS-133825）。その後県北部の休耕田などを中心に複数地点で生育が確認されてきたが、消滅箇所が相次ぎ現存する所は少ない。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査

会目録：130 / 谷城勝弘 1991

調査会目録：186 / 谷城勝弘

1992 調査会目録：172 / 谷城

勝弘 1993 調査会目録：254

／岩瀬・谷城・小野沢 1993

栗山川中流部の湿原。千葉県

自然環境保全学術調査報告書：

7-56 / 千植誌 2003：882,875

（谷城勝弘）



# D ノグサ カヤツリグサ科

*Schoenus apogon* Roem. & Schult.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。沿海地性（内陸では斜面湿地性）。葉は単葉で互生。果実は球形で白色。基部と根は著しい赤紫色。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】主に県北の太平洋側の向陽地を中心に分布する。局所的に少数個体が生育することが多い。旭市の崖湿地には多産する。

【保護対策】刈り取りによる管理を継続し、草地的な環境を維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：462  
／千植誌 2003：860,851

(谷城勝弘)



# D イトイヌノヒゲ ホシクサ科

*Eriocaulon decemflorum* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】湿地に生える一年生草本。葉は長さ5～10cm、先は尖る。花茎は30cmの長さになる。頭花は白色。総苞片は頭花より長く緑白色。種子は表面にかぎ毛がある。高さ10cm以下で頭花の小型のものをコイヌノヒゲ var. *decemflorum*、高さ20～30cmで頭花の大型のものをイトイヌノヒゲ var. *nipponicum* とされたこともあるが、変異は連続していて区別できない。

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】多くの県内記録があるが、近年は消滅する産地が後を絶たない。湿地の改変、放置による植生の遷移が主原因である。

【保護対策】近年における湿地の著しい減少で絶滅の危機される湿性植物が急増している。湿地を良好な環境で維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：711  
(谷城勝弘)



# D ホシクサ ホシクサ科

*Eriocaulon cinereum* R.Br.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】一年生草本。湿地性（水田、休耕田を含む）葉は単葉で束生。葯は白色。総苞片及び花苞は鈍頭または鋭頭。種子は楕円形で黄褐色。虫媒で、水散布。[Th]。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、アフリカ。

【県内の状況】水田や休耕田での生育が多く、稲刈り後の田面に一斉に発芽することがある。長生・茂原地域には複数の群生地がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：407 /  
新千植誌 1975：453 / 折目  
1993 富里の植物：110 / 千植  
誌 2003：711,700

(谷城勝弘)



# D ニッポンイヌノヒゲ ホシクサ科

*Eriocaulon hondoense* Satake

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】一年生草本。湿地性（水田、休耕田を含む）。葉は単葉で束生。イヌノヒゲに似るが花苞、花弁は無毛。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。済州島

【県内の状況】清涼な水湿地や湿田を中心に生育するが、そのような環境の急減によって激減している。ヒロハイヌノヒゲと混生していることが多い。谷津奥などの湿田での調査密度が不足しており、分布状況の詳細は明らかでない。

【保護対策】生育可能な湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：407 /  
新千植誌 1975：453 / 岩瀬・  
谷城・小野沢 1993 栗山川中流  
部の湿原・千葉県自然環境保全  
学術調査報告書：7-56 / 折目  
1993 富里の植物：110 / 千植  
誌 2003：711,700

(谷城勝弘)



## D チョウセンガリヤス イネ科

*Cleistogenes hackelii* (Honda) Honda

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】根茎の短い多年生草本。葉鞘部に開出毛があり、葉舌は毛状。葉鞘部からでない閉鎖花の花序のほか、長さ4～8cmの抜け出す花序がある。小穂は2～4小花からなり、ときに赤紫色を帯び、護穎は長さ4～5mmで、芒を出す。花期は8～10月。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内の全域の雑木林などの林内にみられる。

【保護対策】雑木林の保全。

【文献】千植誌 2003：744, 736

(木村陽子)



## D カリマタガヤ イネ科

*Dimeria ornithopoda* Trin.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】小形の一年生草本。陽地の水湿地に生育。葉身、葉鞘にまばらな毛がある。花序は2～3本の総からなり、中軸は扁平で、長さ3～8cm。小穂は長さ2.7～3.8mmで、両性の上方小花の護穎には3～10mmの芒が外に突き出す。花期は8～10月。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】県内各地。芒がなく帯紫褐色のヒメカリマタガヤ (f.

*microchaeta* Hack.) と混生することがある。

【保護対策】開発で失われやすい湿地の保全。

【文献】千植誌 2003：781, 778

(木村陽子)



## D オオギョウギシバ イネ科

*Cynodon dactylon* (L.) Pers. var. *nipponicus* Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】地上匍匐枝を長く出し、節から発根する多年生草本。ギョウギシバの変種で、ギョウギシバに比べ全体が大きい。花期は9月～11月。[H～Ch]

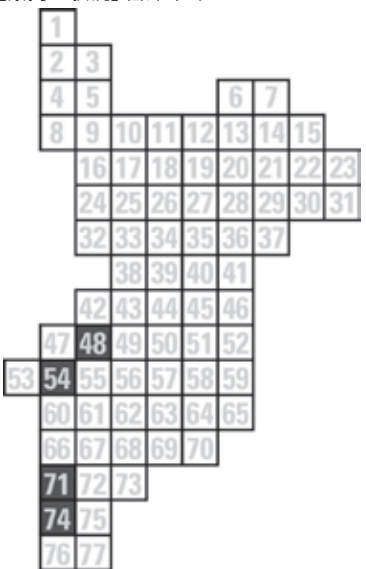
【分布】本州。西日本の特産とされ、三重県や伊豆に分布が知られていたが、千葉県にも分布があり、日本における分布の東・北限となることが明らかになった。さらに北にある茨城県でも1980年頃採集したとの情報がある。

【県内の状況】富津市(1961.10.25 KPM-NA0037595)の標本があったが、館山市の海岸(2001.10.9)で再確認された。

【保護対策】自然海岸の保全。

【文献】勝山輝男 2003 オオギョウギシバ 千資料 19：144 / 千植誌 2003：760, 751

(木村陽子)



## D オオニワホコリ イネ科

*Eragrostis multispicula* Kitag.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の一年生草本。高さ30～70cm。茎は数本叢生。葉鞘の口部に白い毛がある。円錐花序は卵形で、先はやや傾く。花序枝の分岐点に数本の軟毛がある。小穂は、同じ大きさの小花数個からなる。花期は、8月～10月。風媒で、重力散布。平地の里山の道端や畑に生育する。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。ユーラシア。

【県内の状況】主に丘陵地の道端に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:422 / 新千植誌 1975:467 / 増補日本イネ科植物図譜 1993:478 / 千植誌 2013:746

(天野誠)



# D ヒメウキガヤ イネ科

*Glyceria depauperata* Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。水辺に生育。稈は水面に浮いていることが多い。円錐花序の幅は狭い。葉鞘は完筒形。内穎は護穎と同長。内穎の竜骨上のひれは幅広い。県内産のウキガヤとされていたものは、護穎の長さ3.5mm以下のものが多くヒメウキガヤである。花期は5～7月。[HH]

【分布】北海道・本州。千島、中国北部。

【県内の状況】以前は北部に散見されたが、近年は南部からも報告されている。

【保護対策】自然な川、池の保全。

【文献】千植誌 2003：762, 722

(木村陽子)



# D アイアシ イネ科

*Phacelurus latifolius* (Steud.) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】大形の多年生草本。根茎が長い。葉身はやや白緑色。花序は5～10本の総が掌状に並び、総は長さ10～25cm、幅5mmで、各節に有柄小穂と無柄小穂がつき、共に雄性と両性の2小花からなる。第1苞穎は革質で硬い。花期は6～10月。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部、アムール。

【県内の状況】県内では小櫃川や江戸川放水路河口をはじめ、東京湾ぞいから南房総市の湿地や河口に生育するが、太平洋側には現在の所見られない。

【保護対策】埋め立てにより少なくなった海辺の湿地、河口域の保全。

【文献】千植誌 2003：786, 791

(木村陽子)



# D チャボチヂミザサ イネ科

*Oplismenus undulatifolius* (Ard.) Roem. & Schlut.  
var. *microphyllus* (Honda) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。やや湿った所に生育。花序には毛が少ないが、葉面には微毛のほか長毛が散生しているのはコチヂミザサとのよい区別点である。生育がよいと、最上葉の葉の長さは4～4.5cmにもなり、コチヂミザサと似るが、葉の幅が狭いので、細長く見える。花期8～10月。[H]

【分布】本州（関東以西、栃木県、千葉県、神奈川県）・四国・九州・琉球。台湾、フィリピン、ボルネオ。

【県内の状況】県内の清澄山は等価基準標本の産地の1つである。千葉県では、長く忘れられた種であったが、認識されるようになってから、県南の丘陵地以外の佐倉市や山武市でも採集されている。

【保護対策】山林の保全。

【文献】Honda M. 1930. Journ. Fac. Sci. Tokyo Univ. Bot. vol.3：274 / Scholz, U. 1981. Monographie der Gattung *Oplismenus*. J.Cramer Vaduz / 木村陽子・大場達之 1998 千葉県のチャボチヂミザサ. 千資料 13：91 / 木村陽子 1999 チャボチヂミザサーその2. 千資料 14：102 / 小崎昭則 1999 チャボチヂミザサなど. 千資料 14：102-104 / 千植誌 2003：766, 756

(木村陽子)



# D イヌアワ イネ科

*Setaria chondrachne* (Steud.) Honda

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。根茎は伸びる。円錐花序は、中軸に短い枝が交互につき、長さ30cmにもなる。花期は8～10月。[H]

【分布】本州（東北部以西）・四国・九州。朝鮮、中国南部。

【県内の状況】市川市から鴨川市にかけての記録はあるが、九十九里方面からの記録は少ない。

【保護対策】生育地である林、藪、湿生原野の保全。

【文献】千植誌 2003：769, 775

(木村陽子)



## D オオアブラススキ イネ科

*Spodiopogon sibiricus* Trin.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。稈高1mと大形で、根茎は長く鱗片におおわれる。花序の枝は斜上する。小穂は長さ5mm、苞穎の背には長毛がやや密生。下方小花は雄性、まれに無性、上方小花は両性で護穎の先に長さ7～12mmの芒を出す。花期は8～10月。[H]  
富津岬（1961.10.25, 大場達之, KPM-NA0037595）

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部、シベリア。

【県内の状況】船橋市から鋸南町にかけての記録が多いが、御宿町や銚子市にも産する。

【保護対策】草地の保全。

【文献】千植誌 2003：781, 778  
(木村陽子)



## D オニシバ イネ科

*Zoysia macrostachya* Franch. & Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】小型の多年生草本。高さ5～20cm。長い地下茎がある。茎は単生、根元で分枝する。葉身は2～8cm、先が尖っている。花序の下部は最上部の葉鞘に包まれている。花序は長さ3～4cm、幅5～7mm。小穂は1小花からなる。花期は、6月～8月。風媒で、重力散布。海岸の砂浜に生育する。コウボウムギ群団。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】全県下の砂浜に散在する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:428 / 新千物誌 1975:473 / 増補日本イネ科植物図譜 1993 540 / 千植誌 2003:761

(天野誠)



## D ハネガヤ イネ科

*Stipa pekinensis* Hance

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】背の高い多年生草本。草地に生える。稈は直立して枝を分けない。円錐花序は枝を3～6個出し、苞穎は小穂と同長で3脈、ときに紫色を帯び光沢がある。護穎の外面には軟毛があり、2cm以上の芒がある。花期は8～9月。[H]

【分布】北海道・本州。サハリン、千島、中国北部、極東シベリア。

【県内の状況】北部に多い。市川市でも確認されたが、その個体数はわずかである。

【保護対策】かつてのカヤ刈り場、ススキ草地の復活、保全。

【文献】千植誌 2003：715, 717  
(木村陽子)



## D ミクリ ガマ科

*Sparganium erectum* L.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。湿地性または浅い水中。葉は単葉で互生。高さ1m以上になり、ミクリ属の中では最も大型の種。果実はほぼ等大のものからなる。風媒で水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、インドなど。

【県内の状況】河川や池沼の岸辺に普通に見られたが、現在は谷津奥のため池や水路、斜面下の湿所などに点在する程度に減少した。湿地環境の改変で消滅する場所が後を絶たない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：433 / 新千植誌 1975：479 / 岩瀬徹 1989 県のミクリ属について. 千生誌 39(1):30-31 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然。千葉県自然環境保全学術調査報告書：9-87 / 千植誌 2003：814

(谷城勝弘)



|                                            |       |        |      |   |
|--------------------------------------------|-------|--------|------|---|
| D                                          | ミズアオイ | ミズアオイ科 | 2009 | C |
|                                            |       |        | 2017 | C |
|                                            |       |        | 2023 | D |
| <i>Monochoria korsakowii</i> Regel & Maack |       |        |      |   |

【種の特性】小～中形の一年生草本。植物体は軟弱で高さ 20～40cm。葉は単葉で互生し、長い葉柄があり、心形～卵心形。花は 9～10 月に咲き、花序は頂生し総状。花は青紫色で直径 2.5～3cm。虫媒で水散布。[Th] タウコギ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、プリモリア。

【県内の状況】県北部の各地で記録されているが、どこでも個体数が少なく安定的な産地は少ない。水田周辺の溝、池などに生える。水田中

にも見られるが、除草剤の使用で消滅する。

【保護対策】農薬で汚染された排水の影響を受けない平地の水域を計画的に保全する。

【文献】千植誌 2003：702,694

(大場達之／天野誠)



|                                                                   |         |     |      |   |
|-------------------------------------------------------------------|---------|-----|------|---|
| D                                                                 | ミヤマキケマン | ケシ科 | 2009 | D |
|                                                                   |         |     | 2017 | C |
|                                                                   |         |     | 2023 | D |
| <i>Corydalis pallida</i> (Thunb.) Pers. var. <i>tenuis</i> Yatabe |         |     |      |   |

【種の特性】小型の多年生草本。葉は 3 出複葉で互生。虫媒で、自力散布。低地遺存ブナ帯要素。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】房総丘陵に点在するが、下総台地南部の成東での記録もある。湿った川沿いのケヤキ林、竹藪などに見られる。

【保護対策】生育環境を保つ。

【文献】千植誌 2003：231, 225

(大場達之／天野誠)



|   |       |     |                                                                               |   |
|---|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------------|---|
| D | イカリソウ | メギ科 | 2009                                                                          | D |
|   |       |     | 2017                                                                          | C |
|   |       |     | 2023                                                                          | D |
|   |       |     | <i>Epimedium grandiflorum</i> C.Morren var. <i>thunbergianum</i> (Miq.) Nakai |   |

【種の特性】中型の多年生草本。葉は 3 出複葉で互生。虫媒で、自力散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】下総台地の雑木林に多いが、下草刈りなどの手入れが行き届かず、アズマネザサなどの繁茂で著しく個体数が減っている。

【保護対策】鑑賞目的の採取をやめる。自生環境を保つ。

【文献】千植誌 2003：199, 207

(大場達之／天野誠)



|   |        |        |                                 |   |
|---|--------|--------|---------------------------------|---|
| D | イチリンソウ | キンポウゲ科 | 2009                            | C |
|   |        |        | 2017                            | C |
|   |        |        | 2023                            | D |
|   |        |        | <i>Anemone nikoensis</i> Maxim. |   |

【種の特性】小型の常緑多年生草本。全体淡緑色。苞葉は柄がある。花は花序に通常 1 個つける。虫媒で重力散布。シキミーモミ群集など。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内の中～北部に複数の産地が知られる。谷津の湿った斜面下などを生育の適地とするが、近年はそのような場所が放置されてアズマネザサや高茎草本からなる藪となったところが増え、本種のような小型草本の生育維持が困難となっている。

【保護対策】谷津斜面での定期的な刈り取りを行うことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：197, 205.

【写真】2007.4.22 佐倉市宮内 谷城勝弘

(大場達之／谷城勝弘 追補)



## D クサボタン キンポウゲ科

*Clematis stans* Siebold & Zucc.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】 中型の多年生草本。乾きやすい夏緑林や林縁に生える。茎は直立。葉は3出複葉で対生または互生。虫媒で、風散布。[N] オニシモツケーオオヨモギ群目。

【分布】 本州。

【県内の状況】 主に房総丘陵の川沿いの岩場などに記録されるが少ない。佐倉市、野田市、船橋市の記録もある。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 188, 196  
(大場達之／谷城勝弘 追補)



## D ネコノメソウ ユキノシタ科

*Chrysosplenium grayanum* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】 高さ7～15 cmの夏緑のほぼ無毛の小型多年生草本。湿った谷の日陰の腐植質の多いところに生える。地上をはう長い走出枝がある。茎は四稜形で十字対生。葉は広卵形から卵円形で、円鋸歯があり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ5～12 mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は倒卵形、円頭、長さ約1.5 mm、緑色。花弁はない。雄しべは4本、葯は黄色い。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。

虫媒で、重力散布。[H] オオバセンキュウータネツケバナ属群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国。

【県内の状況】 南総から北総東部の丘陵に点在する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 255, 263  
(大場達之／天野 誠 追補)



## D キリンソウ ベンケイソウ科

*Phedimus aizoon* (L.) t Hart var. *floribundus* (Nakai) H. Ohba

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】 高さ20～30 cmの夏緑の多年生草本。海岸および山地の岩場に生える。茎は斜上し、多肉で、無毛。葉は互生、長楕円形で、多肉、長さ3～5 cm、片側に5～7の鋸歯がある。花は集散花序に10～20個つく。花は5数性、萼は披針形、花弁は狭楕円形で、黄色、長さ約5 mm。雄しべは10本で、葯は黄色。離生心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で重力散布。エゾオオバコーウシノケグサ群綱。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】 富津市および白子町以南と三石山に生育している。千葉県は太平洋岸の海岸分布の南限である

【保護対策】 観賞用などでの採集をしない。

【文献】 千植誌 2003 : 253, 262  
(天野誠)



## D イズノシマダイヤモンドソウ ユキノシタ科

*Saxifraga fortunei* Hook.f. var. *crassifolia* (Engl. & Irmsch.) Nakai

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

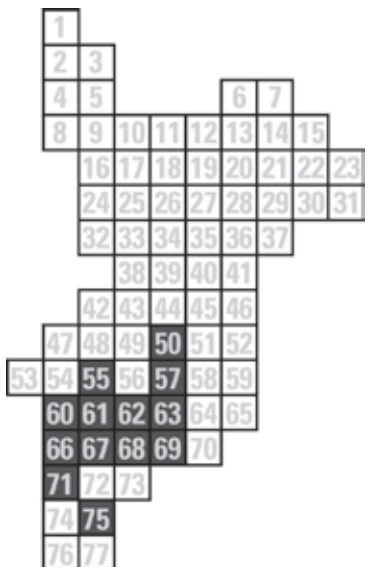
【種の特性】 小型の夏緑の多年生草本。沢沿いの湿った崖に着生する。根茎が発達し、数本の花茎を立てる。葉はほぼ根出葉、長柄がある。偏円形で、荒く不規則に切れ込む。両面に剛毛が生える。花序は総状で、頂生する。花は5数性。萼片は卵形で、反り返る。花弁は線形で不等長、下につく1枚が長く、長さ7～13 mm、白色。雄しべは花糸が短く、葯が黄色で目立つ。雌しべは2心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、風散布。[E] ホウライシダ群綱。

【分布】 本州（関東南部）。

【県内の状況】 南総の丘陵地の谷に分布する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 255, 263  
(大場達之／天野 誠 追補)



|                  |      |   |
|------------------|------|---|
| D エゾタチカタバミ カタバミ科 | 2009 |   |
|                  | 2017 | C |
|                  | 2023 | D |

*Oxalis stricta* L.

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は、単立、互生に葉を付ける。高さ、15～30cm。果柄は水平より下がらない。花期は、6月～10月。虫媒で、自動散布。丘陵地の常緑樹の林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州。朝鮮、中国、プリモリア。

【県内の状況】 主に丘陵地に生育する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 1958:343 / 新千植誌 1975:405 / 千植誌 2003:312 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:141

(天野誠)



|                 |      |   |
|-----------------|------|---|
| D トモエソウ オトギリソウ科 | 2009 | C |
|                 | 2017 | C |
|                 | 2023 | D |

*Hypericum ascyron* L.

【種の特性】 多年生草本。林縁の草地に生える。茎は高さ 50～100 cm。葉の基部は茎を抱き、多くの明点がある。花は明らかな巴形になる。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリア。

【県内の状況】 全域に散在するが、少ない。県内ではやや冷涼な半日陰に生育する傾向がある。

【保護対策】 各地で 1～数個体が確認されるのみであり、大変少ない。生育箇所を明示して保護することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：217,221 (谷城勝弘)



|             |      |   |
|-------------|------|---|
| D イイギリ ヤナギ科 | 2009 |   |
|             | 2017 | C |
|             | 2023 | D |

*Idesia polycarpa* Maxim.

【種の特性】 落葉高木。雌雄異株。樹皮は灰褐色。枝は太く、まばら。葉は三角状心形で、葉身とほぼ同長の柄を持つ。花は円錐花序に多く付き、萼は 5 枚、花弁は退化している。雄花では、多数の雄しべがあり、雌花では雄しべは退化して子房は球形。果実は赤く成熟し、球形。花期は、3月～5月。虫媒で、鳥散布。平地から丘陵地の落葉樹林に生育する。[MM]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 主に南房の丘陵地および北総東部の台地に分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958: 351 / 新千植誌 1975:395 / 千植誌 2003:375 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:184

(天野誠)



|               |      |   |
|---------------|------|---|
| D バッコヤナギ ヤナギ科 | 2009 | D |
|               | 2017 | D |
|               | 2023 | D |

*Salix bakko* Kimura

【種の特性】 夏緑小高木。葉は楕円形で大きく下面に柔らかい縮毛が密にある。花序は幅 2cm ほどある。崩壊地周辺など乾いた環境に先駆的に生える。[MM]

【分布】 北海道・本州（近畿以北）。ユーラシアの中～北部に分布する *S. caprea* L. と同一種とする意見がある。

【県内の状況】 本来はブナ帯に多い種類で千葉県では県内各地に散発的に見られる。

【保護対策】 自生地の環境を保つ。

【文献】 千植誌 2003：92, 104 (大場達之／天野誠)



# D オノエヤナギ ヤナギ科

*Salix sachalinensis* F.Schmidt

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】落葉高木。高さ、8～15m。葉は狭卵形で、長さ10～16cm。全縁またはわずかに鋸歯がある。葉の表面に無毛。雄花は、雄しべが2本、花糸は無毛で、離生する。雌花は白い短毛がある。花期は、4月～5月。風媒で風散布。河岸に生育する。オノエヤナギ群綱。[MM]

【分布】北海道・本州・四国。千島、カムチャッカ、サハリン、ウスリー、アムール、シベリア。

【県内の状況】主に北総と南総の河岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:395 / 新千植誌 1975:440 / 千植誌 2003: 92 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:199

(天野誠)



# D オオキツネヤナギ ヤナギ科

*Salix vulpinoides* Koidz.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。低地遺存ブナ帯要素。風媒で風散布。[N] タニウツギ群団。別名オオネコヤナギ。

【分布】本州（中部以東）。

【県内の状況】崩壊地、道路などの法面などに生える。自生地は千葉市、袖ヶ浦市など極めて限られている。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003: 93, 104

(大場達之／天野誠)



# D キツネヤナギ ヤナギ科

*Salix vulpina* Andersson

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。タニウツギ群団。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州（北部）。東北地方、関西などでは道路法面などに普通に生える種類であるが、関東地方の南部では、それがシバヤナギに置き換わっており、キツネヤナギは稀である。

【県内の状況】主として北総台地に見られるが君津市にも少数の記録がある。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003: 92, 104

(大場達之／天野誠)



# D ホドイモ マメ科

*Apios fourtunei* Maxim

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。つる植物。長さ、100～200cm。地下茎に紡錘体の塊根を付ける。茎は他の植物に巻き付く。葉は5枚の小葉からなる複葉である。花序は偽総状花序で、1節に2～4個の花を付ける。花の長さは約1cmで、黄緑色。花期は、7月～9月。虫媒で自動散布。日当たりの良い林縁に生育する。ミヤマタタビーヤマブドウ群団。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】主として北総と南総の丘陵地に散在する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:363 / 新千植誌 1975: 405 / 千植誌 2003:298 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:256

(天野誠)



## D ジャケツイバラ マメ科

*Caesalpinia decapetala* (Roth) Alston

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑性の藤本。枝には著しい鉤状の棘があって、他の植物の上に広がる。葉は羽状複葉で互生し照葉は6～16個で下面は粉白色。花は4～6月に咲き黄色でおしべは赤色、果実は長楕円形で長さ10cm。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱。[N] クサギーアカメガシワ群団。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】市原市・一宮町以南の県南部に広く分布する。

【保護対策】強い棘があるが、意識的に除去しない。

【文献】千植誌 2003：294, 302  
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



## D レンリソウ マメ科

*Lathyrus quinquenervius* (Miq.) Litv.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生つる草本全体が白っぽい緑色。草索性。茎は翼があって扁平、近くの草にからみ、あるいはよりかかって立ち上がり、高さ40～60cmになる。葉は羽状複葉で互生、小葉は線形で長さ6～10cm。花は5～6月に咲き、紫色の花を5～8個つける。虫媒で重力散布。[G]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県北部の草原に生えるが、自然的な草地の衰退とともに少なくなっている。

【保護対策】観賞用などの採集を行わない。

【文献】千植誌 2003：309, 318  
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



## D サイカチ マメ科

*Gleditsia japonica* Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑高木。河川敷などに生える樹幹に枝分かれした大きな棘が多い。葉は偶数羽状複葉で互生。花は5～6月に咲き緑色、総状花序に密につき、花弁は3～5個で小さく、雄蕊は長く超出。果実は平坦で湾曲し長さ20～25cmで垂れ下がる。虫媒で、水散布。[MM]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】江戸川流域に本来の自生と考えられるものがあるほか、社寺などに植えられ、またそれから逸出したと考えられるものもある。

【保護対策】野生株の伐採はやめる。

【文献】千植誌 2003：294, 302  
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



## D マキエハギ マメ科

*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。高さ、30～60cm。葉は3枚の小葉からなる複葉である。花序は偽総状花序で、2～5個の花を付ける。花の長さは4～5mmで、淡紅色。花期は、8月から9月。虫媒で重力散布。日当たりの良い草地に生育する。[H～Ch]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】主に北総と南総の丘陵地の草地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:365 / 新千植誌 1975:407 / 千植誌 2003:296 / 改訂新版日本の野生植物 2016:281

(天野誠)



## D イヌエンジュ マメ科

*Maackia amurensis* Rupr. & Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑中高木。明るい乾いた林などに生える。高さ2～10m。葉は奇数羽状複葉で互生し、小葉は7～11個で卵形、下面に褐色の軟毛がある。花は7～8月に咲き、花序は総状花序の集まりで、白色の花を密につける。果実は扁平で広線形で3～6個の種子がある。虫媒で重力散布。[MM]

【分布】北海道、本州（中部以北）。

【県内の状況】ほぼ全域に見られるが花の咲くような個体は少ない。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：294, 302  
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



## D カスミザクラ バラ科

*Cerasus leveilleana* (Koehne) H.Ohba

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】大型の落葉高木。葉は、倒卵形で、尾状に先が尖る。葉の長さは7～10cm、両面に軟毛が生える。鋸歯は単鋸歯または粗い二重鋸歯。花は葉と同時に開く。花序は散房状で、2、3の花が付く。萼は全縁。花弁の色は、白または淡紅色。花期は、4月～5月。虫媒で、動物内散布。丘陵地の落葉樹林に生育する。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】主に北総と南総の丘陵地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:412 / 千植誌 2003:287 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:67  
(天野誠)



## D ヒメイタビ クワ科

*Ficus thunbergii* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の常緑性藤本。茎から根を出して、這い上る。茎を伸ばす。枝には開出する軟毛が生える。葉身は卵形で、長さ2～6cm。花期は、7月～8月。虫媒で、動物内散布。果実は、球形で約2cm、灰褐色になる。[M]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】主に安房地方の林縁や崖地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:392 / 新千植誌 1975:436 / 千植誌 2003:116 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:336  
(天野誠)



## D リンボク バラ科

*Laurocerasus spinulosa* (Siebold & Zucc.) C.K.Schneid.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[M] カクレミノ属群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】数は少ないが県南部に集中して自生し、標本は、古くは清澄山、長南町等のものがあり、最近では茂原市、市原市等で採集されている。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003：285, 281  
(御巫由紀)



# D タチゲヒメヘビイチゴ バラ科

*Potentilla centigrana* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で、重力散布。茎の毛が開出する。[H]

【分布】本州・四国・九州の太平洋側。日本海側には茎の毛が伏毛になるフシゲヒメヘビイチゴ (*P. centigrana* f. *centigrana*) が分布する。

【県内の状況】谷津田の畦に生える。古くは山武市、近年では柏市、富里市、山武市、成田市、銚子市、佐倉市で標本が採集されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：273, 277

(御巫由紀)



# D ハマナス バラ科

*Rosa rugosa* Thunb.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で鳥散布。ハマナス群団。[N]

【分布】北海道・本州。東アジア北部。

【県内の状況】太平洋側のハマナスの分布域南限は茨城県といわれているが、県内でもこれまでに数ヶ所、自生していた記録がある。現在、確認されているのは九十九里町（藤の下納屋、1972年に発見（読売新聞）、1983年に九十九里町天然記念物に指定され保護されている）のみであるが、そのほかにも以下の4ヶ所で報告されている。銚子市

（1929年標本）、1935年千葉県県の植物（与世里盛春 1935）、現在はなし。旭市（1932年標本）、現状不明。富津市：1955年に記録あり（川名興 1973）、現在はなし。九十九里町：1962年に発見、1973年（篠崎秀次、千生誌）。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】与世里盛春 1935 千葉県博物研究 5：17 / 川名興 1973 千葉県生物誌 23：1 / 千植誌 2003：285, 280

(御巫由紀)



# D ヒロハノカワラサイコ バラ科

*Potentilla niponica* Th. Wolf

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で、重力散布。乾いた草原に生える。[H] ヨモギ群綱。

【分布】北海道・本州（北～中部）。

【県内の状況】古くは君津郡市及び八街市、館山市等の標本があるが、現状は不明。最近では柏市、八千代市、船橋市、印西市、銚子市等で標本が採集されているが、半自然草原の衰退で自生地は著しく減少している。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：274, 278

【写真】印西市 大場達之

(御巫由紀)



# D ミヤマフユイチゴ バラ科

*Rubus hakonensis* Franch. & Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[Ch] クレミノースダジイ群目。

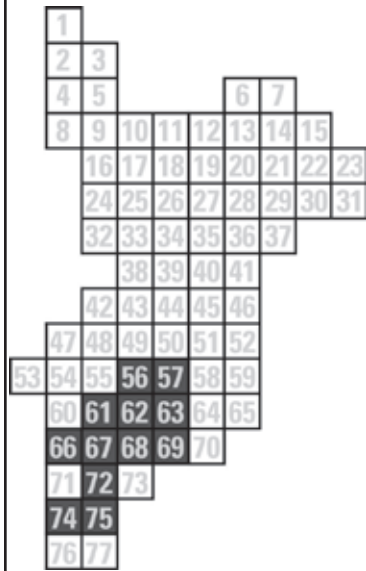
【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では房総丘陵を中心に自生し、君津市、富津市、市原市等で確認されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：270, 266

(御巫由紀)



## D ヒメバライチゴ バラ科

*Rubus minusculus* H.Lév. & Vaniot

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑性の低木。葉は花枝で5～7小葉、徒長枝で7～11小葉からなる羽状複葉。虫媒で食散布。花は白色、4～5月。果実は球形で紅熟する。茎や葉裏の黄色い腺点が特徴。[Ch]

【分布】本州（房総、伊豆、紀伊半島および山陽）・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）。

【県内の状況】県内では房総丘陵の君津市、大多喜町、南房総市、鴨川市等のほか、佐倉市でも標本が採集されている。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：271, 268

（御巫由紀）



## D ナガボノシロワレモコウ バラ科

*Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link. var. *alba* Trautv. & C.A.Mey.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】大型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で、重力散布。ヨシ群網。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、極東ロシア。

【県内の状況】県北部に自生し、佐倉市、八千代市、柏市、我孫子市で標本が採集されている。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：276, 279

（御巫由紀）



## D エビガライチゴ バラ科

*Rubus phoenicolasius* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】別名ウラジロイチゴ。夏緑性の低木。葉はふつう3小葉、徒長枝で5小葉になることもある。虫媒で、被食散布。花は淡紅紫色、6月。果実は球形で紅熟する。葉裏は綿毛に被われ雪白色。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では房総丘陵の君津市、大多喜町、鴨川市、南房総市等で標本が採集されている。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：271, 268

（御巫由紀）



## D ヤマミズ イラクサ科

*Pilea japonica* (Maxim.) Hand-Mazz.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】小形の一年生草本。高さ10～15cmで黄緑色で軟弱。群れて生える。花は雌雄異花で9～10月に咲き淡緑色で雌雄が混じって柄のある花序、または無柄の集散花序に密につく。ほかのミズの仲間とは異なって柄のある花序が茎の頂に立つところが異なる。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国、ブリモリア。

【県内の状況】房総丘陵の記録が多いが、佐原市などの記録もある。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：125, 123, 129

（大場達之／天野誠）



|            |      |   |
|------------|------|---|
| D ゴキヅル ウリ科 | 2009 |   |
|            | 2017 | D |
|            | 2023 | D |

*Actinostemma lobatum* (Maxim.) Maxim.

【種の特性】 つる性一年生草本。雌雄同株。高さ、100～200cm。葉は三角形で、先が尖り、長さ3～10cm。雄花序は、総状花序。雌花は、雄花序の脇に付く。果実は、卵状で、下部には突起があり、上部は滑らか。熟すと上半分が取れる。中には、扁平な種子が2個入る。花期は、8月～11月。虫媒で重力散布。河岸などの水辺に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、台湾、東南アジア。

【県内の状況】 主に北総と南総の水辺に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:320 / 新千植誌 1975:365 / 千植誌 2003:166 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:121

(天野誠)



|              |      |   |
|--------------|------|---|
| D アカシデ カバノキ科 | 2009 | D |
|              | 2017 | D |
|              | 2023 | D |

*Carpinus laxiflora* (Siebold & Zucc.) Blume

【種の特性】 夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。[MM] ツガ群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 ほぼ全域に見られ雑木林などに生えるが普通ではない。一般に関東地方の関東ローマ層で被われた地域ではイヌシデが多く、基岩のあらわれた土壌の薄いところではアカシデが多い傾向がある。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 109, 107  
(大場達之／天野誠)



|                 |      |   |
|-----------------|------|---|
| D ヤマハンノキ カバノキ科. | 2009 | D |
|                 | 2017 | D |
|                 | 2023 | D |

*Alnus hirsuta* Turcz. var. *sibirica* (Fischer) C.K.Schn

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。河原、崩壊地、伐採跡地などの二次的な裸地に先駆的に生える。県内のものは近隣の産地から風で飛来した種子に由来する偶生的なものであろう。虫媒で、風散布。[MM]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、東シベリア。

【県内の状況】 主として北総台地に分布。

【保護対策】 生育地を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 100, 106

(大場達之／天野誠)



|              |      |   |
|--------------|------|---|
| D ハシバミ カバノキ科 | 2009 | D |
|              | 2017 | D |
|              | 2023 | D |

*Corylus heterophylla* Fischer ex Vessel var. *thunbergii* Blume

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】 北海道、本州、九州。

【県内の状況】 下総台地の谷沿いにみられ、谷津の水田の周辺などに見られ、刈られていることが多く、大きな個体は稀である。

【保護対策】 自生地を保全する。谷津の側壁などを人工物に置き換えることをやめる。

【文献】 千植誌 2003 : 109, 107

(大場達之／天野誠)



## D オニグルミ クルミ科

*Juglans ailanthifolia* Carr.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。風媒で、重力散布。河川中流域の川岸に多く、下流域にも見られる。[MM] ケヤキ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】記録地点は多いが、大部分は植栽株などからの逸出と考えられる。保護対象は自生と認められるものに限る。

【保護対策】無用な伐採を防止する。

【文献】千植誌 2003：86, 101

(大場達之／天野誠)



## D ウシタキシソウ アカバナ科

*Circaea cordata* Royle

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】高さ 30 ～ 70cm の夏緑の多年生草本。スギ林などの暗くて湿った林床に生育する。地下茎を長く伸ばす。茎は四稜形で十字対生。葉は広卵形で、下の葉の基部は心形、浅い鋸歯がある。葉の両面に絹毛がある。葉柄は長く、葉身の約半分からほぼ同長。総状花序を頂生および上部の葉腋につける。花弁は白色、2 枚。長さ約 2mm で、深く 2 裂する。果実は閉果で、ほぼ球形。一面に鉤状の剛毛が生える。虫媒で付着散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】北総台地の西端、南総の山地、清澄山山系などに点々と分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：394, 398

(大場達之／天野 誠 追捕)



## D タチフウロ フウロソウ科

*Geranium krameri* Franch. & Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、自散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] ススキ群目。

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】乾いた半自然のススキ草地、明るい雑木林、林縁などに生え、かつての牧には多かったと推定される。現在は著しく衰退している。

【保護対策】半自然草地を計画的に管理する。

【文献】千植誌 2003：315, 321, 314

(大場達之／天野誠)



## D コイヌガラシ アブラナ科

*Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中形の一～二年生草本。池、川などの一時的に干上がる泥地に生える。茎は直立し上部で枝を分かち。葉は互生し羽状に全裂。花は 4 ～ 6 月。黄色。虫媒で、自力散布 + 水流・鳥への付着散布。[Th].

【分布】本州 (関東以西)・四国・九州。朝鮮、中国、台湾、ブリーモリア。

【県内の状況】利根川水系に見られ、鳥の付着散布と考えられるものが内陸に点在する。千葉県立中央博物館の生態園の湿地にもジョウロウスゲなどと共に一時的に生えたことがある。

【保護対策】河川の冠水湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003：235, 237

(大場達之／天野誠)



# D ハマナデシコ ナデシコ科

*Dianthus japonicus* Thunb.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】別名フジナデシコ。高さ 15cm～35cm の夏緑の多年生草本。海岸の崖地に生育する。1 本から数本の茎を立てる。未開花株は密な十字対生のロゼットを形成する。葉は長楕円形で、長さ 3～7 cm、鋭頭、基部は楔形で、ほぼ無柄。葉は全縁で、無毛、光沢があり、厚い。花は頂生および上部の葉腋に密集する。花は 5 数性で、萼片は癒着して円筒形になる。花弁は、倒卵形で先端は細かく切れ込み、鮮やかな赤紫色で、長さ約 10mm で、長い爪がある。果実は蒴果で、

円筒形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、重力散布。ワダン・イソギク群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】南総、安房地域の海岸および銚子半島に分布する。

【保護対策】海崖植生の保全。

【文献】千植誌 2003：153, 163

(大場達之／天野誠 追補)



# D モウセンゴケ モウセンゴケ科

*Drosera rotundifolia* L.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】食虫性の小型の多年生草本。湿地性。葉は根生し、単葉で互生。花序は直立し、先端の若い部分は螺旋状に巻き、花は白色 5 弁。虫媒で風散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球北部。

【県内の状況】茂原市、成東・東金食虫植物群落のような湿地のほか、谷津田側壁の湿った崖などにも見られる。

【保護対策】観賞用などでの採集をしない。

【文献】Komiya, S. & C.

Shibata 1978

Distribution of the

Droseraceae in Japan.

Bull. Nippon Dental Univ.

Gen. Edc. 7：180-188 /

千植誌 2003：220, 223

(大場達之／天野誠)



# D サワハコベ ナデシコ科

*Stellaria diversiflora* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】高さ 5～10cm の夏緑の多年生草本。スギ林等の湿った林に生育する。茎は無毛、基部は匍匐し、不定根を伸ばす。葉は三角形から菱形で、鋭尖頭、対生する。葉身とほぼ同長の柄がある。葉は全縁で、葉面にわずかな毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は披針形で、鋭尖頭、白膜の縁取りはない。花弁は、倒披針形で深く 2 裂する。白色で、長さ約 4 mm。雄しべの数は 2～10 本。果実は蒴果で、楕円球。虫媒で、重力散布。[H] 低地遺存ブナ帯要素。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】主として南総台地に分布する。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：155, 173

(大場達之／天野誠 追補)



# D ウリノキ ミズキ科

*Alangium platanifolium* (Siebold & Zucc.) Harms var. *trilobum* (Miq.) Ohwi

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[N] サワグルミ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】房総丘陵の湿った谷間の林に生える。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：406, 401

(大場達之／天野誠)



## D リョウブ リョウブ科

*Clethra barbinervis* Siebold & Zucc.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑中高木。主に夏緑林の林縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[M] ミヤマタタビーヤマブドウ群団。

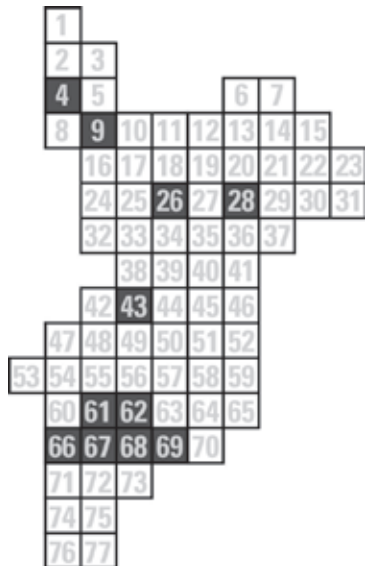
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】公園などに植えられることがあり、真の自生と確認できるものは少ない。

【保護対策】低木の集まる林縁環境を良好に保つ。かつての牧の点在する藪には多く見られた可能性がある。牧場、農地などの境界としての自然の生け垣を積極的に保護すべきである。

【文献】千植誌 2003：430, 418

(大場達之／天野誠)



## D ウメガサソウ ツツジ科

*Chimaphila japonica* Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。[Ch]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、千島。

【県内の状況】照葉樹林、とくにモミの混じった林に生える。

【保護対策】生育環境の保全。

【文献】千植誌 2003：430, 418

(大場達之／天野誠)



## D オオバマンリョウ サクラソウ科

*Ardisia crenata* Sims var. *taquetii* (H.Lév.) Nakai

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑小低木であるが、2mを超えるようなものもある。マンリョウに似ているが葉は細長く、先端は長く尖り、葉質は薄く、濃い緑色で鋸歯は数が少ない。虫媒で、鳥散布。[N]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、インド。

【県内の状況】房総半島南部に見られ、里近くではマンリョウと混生するところもある。清澄山などでは草食獣が食べないために個体数が異常に多いところがある。

【保護対策】自然に近い照葉樹林を保全する。

【文献】千植誌 2003：434, 438

(大場達之／天野誠)



## D ミツバツツジ ツツジ科

*Rhododendron dilatatum* Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で3輪生。虫媒で、風散布。

【分布】本州（関東、中部、近畿）。

【県内の状況】房総丘陵に生育する。

【保護対策】園芸品のミツバツツジが容易に入手できるにもかかわらずいまだに山採りをする人がいる。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1976 ヒロハドウダンツツジの自生地、房総に見つかる。植物採集ニュース 88：45-46／木村陽子ほか 1997 白浜自然環境保全地域・白浜町・平成8年度千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書：1-36／千植誌 2003：433, 437

(大場達之／天野誠)



|                 |      |   |
|-----------------|------|---|
| D シャクジョウソウ ツツジ科 | 2009 | D |
|                 | 2017 | C |
|                 | 2023 | D |

*Monotropa hypopithys* L.

【種の特性】多年生草本。菌根性。植物体はは無葉緑で淡褐色。花は7月に咲き、はじめ下向きに咲き、後上を向いて熟す。虫媒で、風散布。[G]

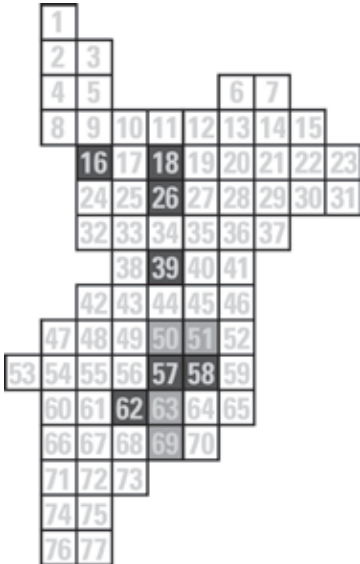
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、北半球北部。

【県内の状況】スギ林、照葉樹林などにはえるが、アキノギンリョウソウなどに比べて記録が少ない。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：431, 418

(大場達之／天野誠)



|                   |      |   |
|-------------------|------|---|
| D サカキカズラ キョウチクトウ科 | 2009 | C |
|                   | 2017 | C |
|                   | 2023 | D |

*Anodendron affine* (Hook. & Arn.) Druce

【種の特性】夏緑藤本。照葉樹林の林床、林縁に生えるが開花結実する株は少ない。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。カクレミノースダジイ群目。[M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド。

【県内の状況】房総丘陵のスダジイ林の周辺に見られる。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：462, 454

(大場達之／天野誠)



|              |      |   |
|--------------|------|---|
| D クロバイ ハイノキ科 | 2009 | D |
|              | 2017 | D |
|              | 2023 | D |

*Symplocos prunifolia* Siebold & Zucc.

【種の特性】常緑中高木。やや乾いた照葉樹林に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[MM] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵に分布するが、安房丘陵には確認されていない。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：446, 441

(大場達之／天野誠)



|                  |      |   |
|------------------|------|---|
| D スズサイコ キョウチクトウ科 | 2009 | C |
|                  | 2017 | C |
|                  | 2023 | D |

*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

【種の特性】多年生草本。草刈りを定期的に行っている斜面草地に見られる。茎は直立し高さ40～80cm。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き黄褐色。虫媒で、風散布。[G] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】ほぼ全域に見られるが半自然草地の衰退で少なくなっている。

【保護対策】半自然草地を維持・管理する。

【文献】千植誌 2003：464, 455

(大場達之／天野誠)



## D イヨカズラ キョウチクトウ科

*Vincetoxicum japonicum* C.Morren & Decne.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

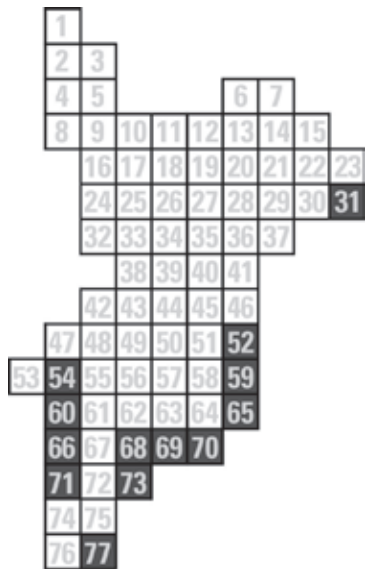
【種の特性】多年生つる草本海岸の波しぶきを受ける崖にイソギクなどと共に生える。葉は単葉で光沢があり対生。花は5～7月に咲き、淡黄色。虫媒で、風散布。[G] ボタンボウフウ群団。別名スズメノオゴケ。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】太平洋側では銚子市から館山市まで、東京湾側では富津市が北限。

【保護対策】海崖の自然植生を破壊しない。

【文献】千植誌 2003：464, 455  
(大場達之／天野誠)



## D ケイワタバコ イワタバコ科

*Conandron ramondoides* Siebold & Zucc. var. *pilosu*

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

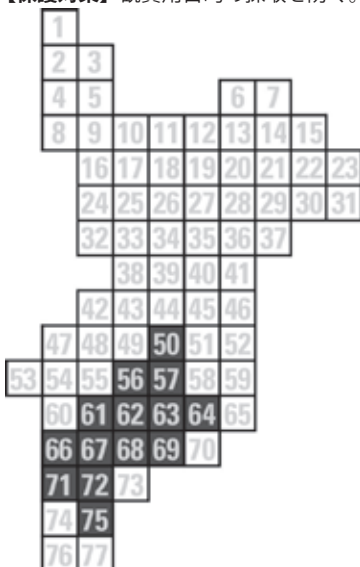
【種の特性】多年生草本。溪谷などの湿った岩場に群れて生える。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き、花冠は5裂し紫色で、直径約15mm。虫媒で、風散布。[E] チャセンシダ群綱。

【分布】本州（関東～近畿）。花茎、花序などに毛のないものが母種のイワタバコで、本州・四国・九州・琉球に分布する。関東南部ではシイ・カシ帯にケイワタバコ、ブナ帯にイワタバコが分布する。

【県内の状況】房総丘陵の溪谷の岩場に見られる。

【保護対策】観賞用目的の採取を防ぐ。

【文献】千植誌 2003：543, 532  
(大場達之／天野誠)



## D ホウライカズラ マチン科

*Gardneria nutans* Siebold & Zucc.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】常緑藤本。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[M] カクレミノースダジイ群団。

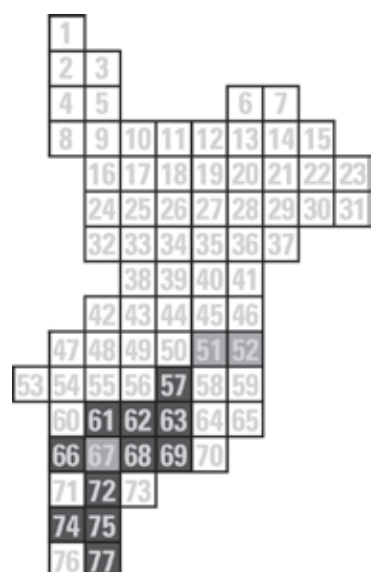
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】照葉樹林に生えるが、開花結実するような個体は少ない。房総丘陵の照葉樹林に生える。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：450, 443

(大場達之／天野誠)



## D クルマバナ シソ科

*Clinopodium chinense* (Benth.) O.Kuntze var. *parviflorum* (Kudo) H.Hara

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。高さ、20～80cm。葉は卵形、長さ2～4cm。小苞は線形で花柄より長く開出する長毛がある。花冠は赤紫色。輪散花序は、やや離れて付く。花期は、8月～9月。虫媒で重力散布。草地に生育する。ススキ群綱。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】主に南総の草地、南総と安房の風衝草原に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:330 / 新千植誌 1975:376 / 千植誌 2003:505 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:132

(天野誠)



|   |            |      |   |
|---|------------|------|---|
| D | ミゾコウジュ シソ科 | 2009 | D |
|   |            | 2017 | D |
|   |            | 2023 | D |

*Salvia plebeia* R.Br.

【種の特性】二年生草本。河川の氾濫原や水田に生える。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。茎は直立し枝を分かつ。[Th] タウコギ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】利根川沿岸などにはやや普通であるが、水田環境では耕地整理で著しく減少している。

【保護対策】河川氾濫原を過度に管理しない。水田では除草剤の過度の使用をつつしむ。

【文献】千植誌 2003：492, 496  
(大場達之／天野誠)



|   |            |      |   |
|---|------------|------|---|
| D | アブノメ オオバコ科 | 2009 | C |
|   |            | 2017 | D |
|   |            | 2023 | D |

*Dopatrium junceum* (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、水散布。水田に生えるがが少ない。[Th] アゼナ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】県北部の水田に普通であったが、農薬の使用や水田耕作の方法の転換で著しく減少している。

【保護対策】農薬の過度の使用をやめる。

【文献】千植誌 2003：538, 528  
(大場達之／天野誠)



|   |           |      |   |
|---|-----------|------|---|
| D | ヒメナミキ シソ科 | 2009 | D |
|   |           | 2017 | D |
|   |           | 2023 | D |

*Scutellaria dependens* Maxim.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県の中から北部の湿地、水田のあぜ道などに見られるが普通ではない。

【保護対策】湿地を保全する。またあぜ道などを牧草などで緑化することを再考する。

【文献】千植誌 2003：490, 494  
(大場達之／天野誠)



|   |            |      |   |
|---|------------|------|---|
| D | シソクサ オオバコ科 | 2009 | D |
|   |            | 2017 | D |
|   |            | 2023 | D |

*Limnophila chinensis* (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

【種の特性】二年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。アゼナ群綱。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】千葉県では中～北部に見られるが普通ではない。

【保護対策】耕作中の水田に生えるので保護対策は難しい。

【文献】小松崎一雄 1971 千葉県下のシソクサの産地。植物採集

ニュース 57：86-87／浅野

貞夫 1972 千葉県下のシソ

クサの産地に再追加。植物採

集ニュース 62：38／千植誌

2003：537, 528

(大場達之／天野誠)



## D トウオオバコ オオバコ科

*Planntago japonica* Franch. & Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。根は多数。高さ、40～80cm。葉は卵形で、厚めな革質、葉身の長さは、8～25cm。多数の白い花を、穂状に付ける。種子は角張っていて、1果に7～14個。花期は、7月～8月。虫媒で重力散布。汽水域の河岸などの水辺に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】主に北総と南総の水辺に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:324 / 新千植誌 1975:369 / 千植誌 2003:547 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:81

(天野誠)



## D イガホオズキ ナス科

*Physaliastrum echinatum* (Yatabe) Makino

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。茎はまばらに分枝して、高さ 50～70cm。葉は卵形で、先が尖る。葉柄は徐々に狭くなる。花は葉腋に1～3個付く。萼には縮れた軟毛が生える。液果は丸くて下垂し、径 1 cm になる。外側にまばらに棘状突起を付ける。花期は、6月～8月。虫媒で、動物内散布。丘陵地の林床に生育する。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】主に北総と南総の丘陵地の林床に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:329 / 新千植誌 1975:347 / 千植誌 2003:520 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:38

(天野誠)



## D イヌノフグリ オオバコ科

*Veronica polita* Fr.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】小型の一年生草本。高さ、5～10cm。基部で枝分かれして、斜上する。葉は対生で、先に2、3の鋸歯がある。茎の上部に1花ずつ花を付ける。花冠は4裂し、色は桃色。果実は、心形で長さ約3mm。種子は舟形。花期は、4月～5月。虫媒で、重力散布。道ばたの石垣の隙間や畑の畦道などに生育する。[Th]

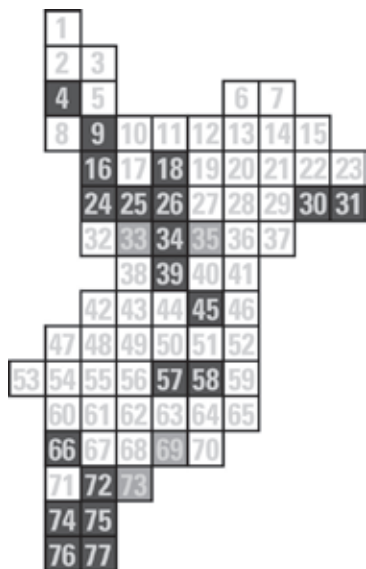
【分布】本州・四国・九州・琉球。ユーラシア。

【県内の状況】主に安房地方および北総東部に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:328 / 新千植誌 1975:374 / 千植誌 2003:534 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:84

(天野誠)



## D ノブキ キク科

*Adenocaulon himalaicum* Edgew.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】中型の多年生草本。長い根茎から茎を伸ばす。高さ 30～50cm。葉柄には、翼がある。葉は三角状心形、長さ 5～13cm。裏面に密綿毛がある。頭花は4から5mm、20～30の小花がある。果実は、熟すと黒くなり、多数の腺体がある。花期は、8月～10月。虫媒で、動物外散布。主に山地の林床に生育する。ミズヒキードクダミ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、サハリン、朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】主に丘陵地の林床に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:309 / 新千植誌 1975:352 / 千植誌 2003:600 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:209

(天野誠)



|   |        |     |      |   |
|---|--------|-----|------|---|
| D | ヌマダイコン | キク科 | 2009 |   |
|   |        |     | 2017 | C |
|   |        |     | 2023 | D |

Adenostemma lavenia (L.) Kuntze

【種の特性】 中型の多年生草本。細長い根茎から茎を伸ばす。下部で枝が分かれ、上部は直立する。葉は対生する。葉には、4～20 対の低く鈍い鋸歯がある。花は長い枝先に数個ずつつく。小花は全て筒状花。花期は、9 月～11 月。虫媒で、重力散布。主に湿地や湧水の縁に生育する。[H]

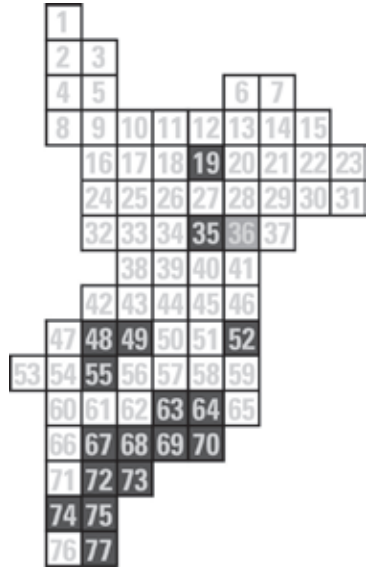
【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、中国

【県内の状況】 主に南総の湿地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1 58:309 / 新千植誌 1975:352 / 千植誌 2003:591 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:365

(天野誠)



|   |        |     |      |   |
|---|--------|-----|------|---|
| D | ノコギリソウ | キク科 | 2009 |   |
|   |        |     | 2017 | D |
|   |        |     | 2023 | D |

Achillea alpine L.

【種の特性】 多年生草本。高さ、30～70cm。葉は羽状に中・深裂する。白色の舌状花は5～7 個付き、長さ3.5～4.5mm。頭花は密な散房状に付く。花期は、7 月～9 月。虫媒で風散布。草地に生育する。ススキ群綱 [H]

【分布】 北海道・本州。

【県内の状況】 本に南総の草地、南総と安房の風衝草原に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:309 / 新千植誌 1975:352 / 千植誌 2003 :615 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:327

(天野誠)



|   |         |     |      |   |
|---|---------|-----|------|---|
| D | カワラニンジン | キク科 | 2009 |   |
|   |         |     | 2017 | D |
|   |         |     | 2023 | D |

Artemisia apiacea Hance

【種の特性】 一年生草本。高さ、40～150cm。葉は2 回羽状で深裂する。頭花は5～6 mm。頭花を花序枝に総状に付け、全体は円錐花序になる。花期は、8 月～9 月。風媒で風散布。河原に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】 主に利根川水系、江戸川水系に生育する

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:310 / 新千植誌 1975:353 / 千植誌 2003:618 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:330

(天野誠)



|   |        |     |      |   |
|---|--------|-----|------|---|
| D | センダングサ | キク科 | 2009 |   |
|   |        |     | 2017 |   |
|   |        |     | 2023 | D |

Bidens biternata (Lour.) Merr. & Sherff ex Sherff

【種の特性】 一年生草本。やや湿った所を好む。茎の断面は四角形。葉は対生する。葉は5 小葉からなる羽状複葉。頭状花には、短い黄色舌状花が数個ある。瘦果には3 つの刺がある。虫媒で、動物外散布。[Th]

【分布】 本州、四国、九州、琉球。朝鮮、中国、マレーシア、インド、オーストラリア、小アジア、アフリカ。

【県内の状況】 各地の平地に散在する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:311 / 新千植誌 1975:354 / 千植誌 2003:631 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:356

(天野誠)



一般保護  
D

## D タカアザミ キク科

*Cirsium pendulum* Fisch. ex DC.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】大形の夏緑多年草で高さ1～2.5 m。河川敷に見られるが、宅地造成地などに偶生することがある。茎は直立し上部で枝を分かち。根生葉は花時には枯れている。頭花は多数で下向きに咲く。筒状花は紅紫色。虫媒で風分布。[H]

【分布】北海道・本州。朝鮮、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】分布は県の北部に集まっているが、鴨川市からの報告もある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：578, 570  
(大場達之／天野誠)



## D オグルマ キク科

*Inula japonica* Thunb.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。オグルマに近縁のホソバオグルマおよびオグルマとホソバオグルマの雑種であるサクラオグルマが県内に分布する。ホソバオグルマに似ているが、葉は緑色が濃く幅広く、ロゼットをつくらず、花が大きい。[H] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】水田周辺の草地など、人為的な攪乱のある場所に見られ、かつて切り花用（ミソハギのように）あるいは薬用などの目的で、人家周辺に保護されていた可能性はある。現在の産地は限られている。

【保護対策】観賞目的などでの採集を控える。

【文献】千植誌 2003：613, 608  
(大場達之／天野誠)



## D ワダン キク科

*Crepidistrum platyphyllum* (Franch. & Sav.) Kitam.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本あるいは1回稔性の多年生草本。葉は単葉で全縁、ロゼット状で、白緑色を帯びキャベツに似た感じがある。花は秋遅くに咲き、花茎の先に密に黄色い花を集めて咲く。虫媒で、風散布。[Ch]

イソギクハチジョウススキ群集。

【分布】本州（伊豆諸島・房総半島・三浦半島）。

【県内の状況】全域の海崖に見られるが、個体数は少ない。

【保護対策】自然な海崖の開発を控える。

【文献】千植誌 2003：646, 637  
(大場達之／天野誠)



## D ホソバオグルマ キク科

*Inula linearifolia* Turcz.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】中形の多年生夏緑草本。自然的な湿地に生える。茎は高さ40～70cm。葉は線状披針形で明るい緑色、縁が下側に巻き込み、下面に白く光る腺点が多い。株の周囲にロゼットを出す。花は8～9月。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮半島、中国、シベリア。

【県内の状況】産地は県の北部に集中している。

【保護対策】低地の自然的な湿地を保存する。

【文献】千植誌 2003：613, 608  
(大場達之／天野誠)



# D カセンソウ キク科

*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。半自然の管理の行き届いた草地、明るい雑木林などに生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。ススキ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。[H]

【県内の状況】ほぼ全域で記録されているが、房総丘陵では少ない。

【保護対策】観賞用などでの採取を防ぐ、自生環境を保持する。

【文献】千植誌 2003：613, 608

(大場達之)



# D ハマニガナ キク科

*Ixeris repens* (L.) A.Gray

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。地下茎は白く砂中を横に這い、葉と花を砂上に出す。葉は5角状で、掌状に裂ける。葉は単葉で互生。花は5～7月。花茎は先端に2～5個の頭花をつける。虫媒で風散布。[G]ハマボウフウ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、朝鮮、台湾、中国、カムチャッカ。

【県内の状況】千葉県の海岸砂浜に広く分布するが、攪乱された砂浜には見られず、少なくなっている。

【保護対策】自然の砂浜を保全する。

【文献】千植誌 2003：648, 639

(大場達之／天野誠)



# D ノニガナ キク科

*Ixeris polyccephala* Cass.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】二年生草本。河川の氾濫原、田の畦など湿った粘土質の土壌に生える。葉は単葉で互生、根生葉は線状披針形、茎の葉は長いやじり形で全縁。茎は高さ15～40cm。花は5月で、舌状花は黄色。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、インド、コーカサス。

【県内の状況】県北部の利根川水系に属する各地から報告され、八街市などの水田周辺からも記録されている。また千葉市へ移植した芝生に生えたこともある。

【保護対策】河川氾濫原の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：648, 639  
(大場達之／天野誠)



# D サワオグルマ キク科

*Senecio pierotii* Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】多年生草本。茎は高さ50～80cmで直立し下部にロゼット状に葉が集まりつく。花は4～5月。舌状花は黄色。湿地に生え群生することがある。虫媒で風散布。[H]ヨシ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】九十九里低地、利根川沿岸など県の北部に多いが鴨川市でも記録されている。千葉市では放棄水田に群生するところがあるが、ほかでは個体数が減少している。

【保護対策】湿地を保全するとともに、観賞用などでの採取を防止する。

【文献】千植誌 2003：602, 605

(大場達之／天野誠)



## D クマノギク キク科

*Wedelia chinensis* (Osbeck) Merr.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

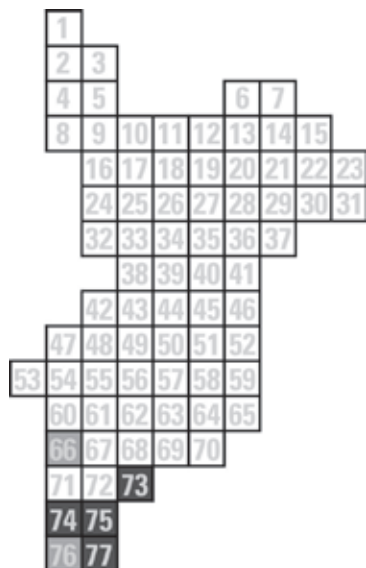
【種の特性】常緑多年生草本。海岸近くの湿った草地に生える。茎は地表あるいは浅い地中を横に走り、マット状に広がる。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、マレーシア。

【県内の状況】南房総市、鴨川市、館山市から記録されている。水田の畔にも見られる。千葉県産のものは帰化の可能性もあるが、1935年ころから記録がある。本種に限らずコスモポリタンの雑草は、自生か否かの判断が難しい。

【保護対策】生息地の砂浜の保全が望ましい。

【文献】千植誌 2003：630, 623  
(大場達之／天野誠)



## D ハマボウフウ セリ科

*Glehnia littoralis* F.Schm. ex Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】小形の多年生草本。砂浜でコウボウムギとよく共存する。葉は羽状複葉で互生。葉は地表に広がり、その中央から花茎を出す。葉柄は赤褐色。花は6～7月に咲き白色。花序には毛が多い。虫媒で重力散布。[G] ハマボウフウ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。台湾、サハリン、朝鮮、中国、ブリモリア。

【県内の状況】海岸の砂浜に普通であったが、場所によっては護岸などで、自然植生が失われ減少している。また食用としての採取も見られる。

【保護対策】砂浜を維持する。食用に採集しない。

【文献】千植誌 2003：428, 417

(大場達之／天野誠)



## D セリモドキ セリ科

*Dystaenia ibukiensis* (Y.Yabe) Kitag.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】中形の夏緑多年草。湿った林床に生える。茎は高さ30～70cmで上部で分枝。葉は2回3出複葉。花は7～8月に咲き白色。虫媒で風分布。[H] 別名タニセリモドキ。

【分布】本州（東北・関東・中部）。

【県内の状況】県南部に分布するが普通ではなく、房総丘陵の西南部に限られる。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：426, 415

(大場達之／天野誠)



## D イブキボウフウ セリ科

*Libanotis coreana* (H.Wolff) Kitag.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | C |
| 2023 | D |

【種の特性】夏緑の中から大形多年生草本。乾いたススキ草原などに生える。太い根茎がある。茎は高さ40～80cm。葉は複羽状に細かく分裂し毛がある。花は8～9月に咲き白色。散形花序には総苞片がなく小総苞片がある。果実は卵形で毛がある。[H] ススキ群綱。海岸の崖などに生えるハマノイブキボウフウは丈が低く葉に毛が少なく光沢がある。変種相当のものであろう。

【分布】北海道・本州（近畿以東）

【県内の状況】ほぼ千葉県全域から記録があるが、最近は少なくなっている。

【保護対策】自然的な草刈り草地进行を保全する。

【文献】千植誌 2003：426, 416

(大場達之／天野誠)



# D トチバニンジン ウコギ科

*Panax japonicus* C.A.Mey.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | D |
| 2023 | D |

【種の特性】 中型の多年生草本。葉は掌状複葉で互生。虫媒で、鳥散布。

〔G〕 ブナ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。低地遺存ブナ帯要素。

【県内の状況】 県の南部では湿潤なケヤキ林などに見られるが、県北部では肥沃なスギの老齢林などに見られる。

【保護対策】 肥沃な谷沿いの林には希少な植物が集中しているので、計画的に生物多様性保全林のような形で保護する。

【文献】 千植誌 2003：409, 402

(大場達之／天野誠)



## RH ボウシュウネズ ヒノキ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Juniperus rigida* Siebold & Zucc.  $\times$  *taxifolia* Hook. & Arn. var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

【種の特性】ネズとオオシマハイネズの雑種と推定される。この組み合わせの雑種は国内に他に報告がない。

【分布】鋸南町の海岸近くのネズとオオシマハイネズの混生する岩場にまれに見られる。

【県内の状況】現在まで上記の1地点のみに知られる。

【保護対策】分布が限られており、開発等により生育地が失われると絶滅する可能性がある。生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：79-80, 83

【写真】1998.4.10 鋸南町 大場達之

(齋木健一)



## RH オオササエビモ ヒルムシロ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Potamogeton xanguillanus* Koidz.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉身基部は茎を半周ほど巻き、葉縁は波打つ。湖沼に生える。結実極めて稀。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

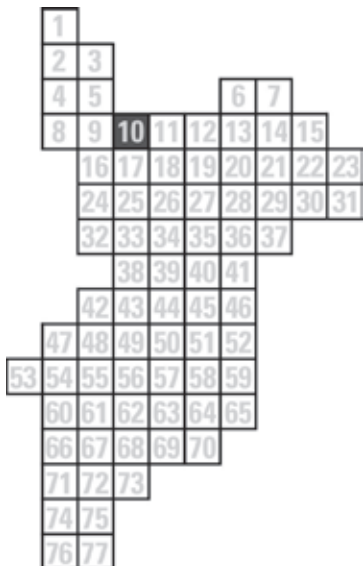
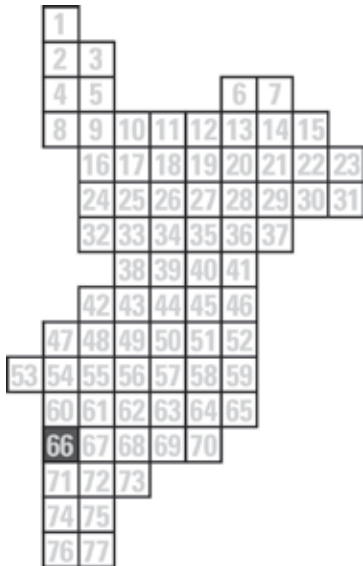
【県内の状況】1990年に手賀沼畔の造成池に発生したが、植生の遷移と水質の変化により数年後には消滅した。かつての水質が良好に維持されていた時代の手賀沼に生育があったものと思われる。本種は雑種起源の可能性が高い。

【保護対策】生育地の水質を良好に維持することが望ましい。

【文献】角野康郎 1994 日本水草図鑑：40／谷城勝弘 1995 調査会目録：122/ 千植誌 2003：669

【写真】1990.7.12 柏市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## RH インバモ ヒルムシロ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Potamogeton × inbaensis* Kadono

【種の特性】多年生草本。湖沼性。葉は単葉で互生～対生。風媒で水散布。ササバモとガシャモクの雑種で両者の中間的形質をもつ。葉柄の長さ1～3.5cm、葉身は長さ5～15cm。結実しない。[HH]

【分布】本州（千葉県 印旛沼、手賀沼）・九州。

【県内の状況】1980年に印旛沼で採集された標本に基づいて記載された（角野 1983）。同時に発表された印旛沼産のヒロハノササバモ（*Potamogeton inbaensis* nm. *pseudomalainanus* Kadono）は両親がインバモと共通の自然雑種である。印旛沼、手賀沼で記録されるが、現在は沼本体に生育がない。沼岸での工事や実験堀の創出により埋土種子による発生がしばしば確認される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】角野康郎 1984 ヒルムシロ属同定の実際. 水草研会報 16: 6-11 / 角野康郎 1994 日本水草図

鑑: 37 / 谷城勝弘

1995 調査会目

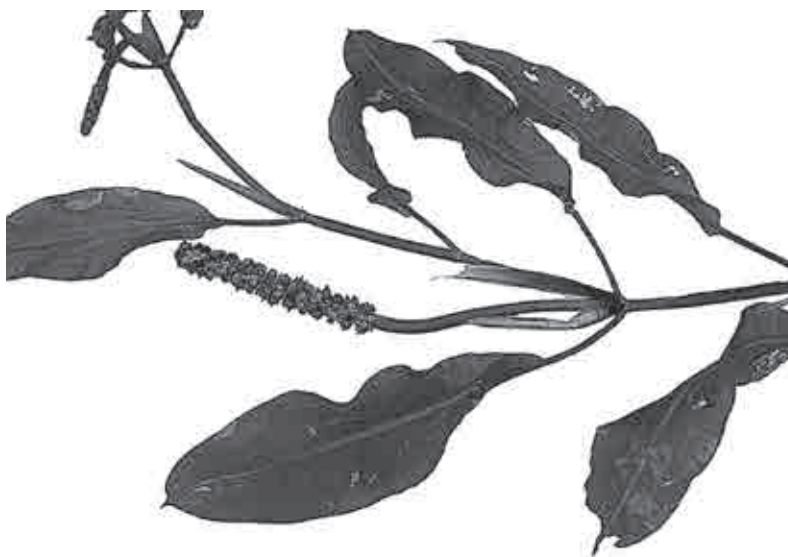
録: 121 / 千葉植

誌 2003: 669,663

【写真】2007.6.30

印西市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



## RH アイノコイトモ ヒルムシロ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 |    |
| 2017 | C  |
| 2023 | RH |

*Potamogeton × orientalis* Hagstr.

【種の特性】水生の多年生草本。ヤナギモとイトモの雑種。葉は、線形、長さ4.5～7cm、幅1.2～2mm。葉は、全縁で鋭頭。花穂は2～5mmで、数花。殖芽で繁殖する。花期は、7月～9月。河川や水路に生育する。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】主に北総の水系に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:669 / 日本の水草 2014:135

【写真】2007.5.13 東京都 石川和宏

（天野誠）



## RH ヒメスガモ アマモ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Phyllospadix iwatensis* Makino × *P. japonica* Makino

【種の特性】岩礁海岸の潮干帯最下部に生える多年生草本。分岐した強い根茎で岩面に固着する。スガモとエビアマモの雑種と推定され、生育地周辺には両親と目されるスガモとエビアマモが生育するが、生育環境は両親種が潮下帯最上部に生育し、干潮時にも干出しないのにもかかわらずヒメスガモはより高い場所を占めている。葉はスガモやエビアマモより短く 20～40cm で幅 0.1～0.3cm で 3～5 脈があり、葉縁には鋭い鋸歯とリボン状透明の縁が混在し、母種の中間の形質を持っている。海水水媒で、海水水

散布。[HH]

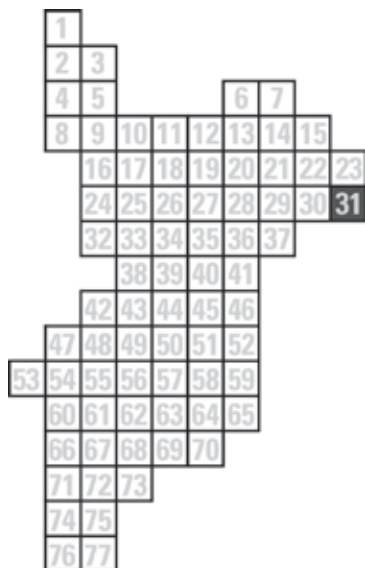
【分布】本州（千葉県（銚子市）と茨城県）。

【県内の状況】銚子市に見られる。

【保護対策】生育環境を保存する。

【文献】宮田昌彦・大場達之 2007  
日本海草図譜 10,42-43

【写真】2004.5 銚子市 大場達之  
(宮田昌彦・大場達之)



## RH イソハマアオスゲ カヤツリグサ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 |    |
| 2017 |    |
| 2023 | RH |

*Carex* × *bosoensis* Yashiro

【種の特性】ハマアオスゲとイソアオスゲの推定雑種。2007 年 5 月 12 日に長生郡一宮町東浪見の海岸松林で発見、採集された個体を基準標本として記載された (Yashiro 2010)。葉縁はあまりざらつかず、果胞は微毛があってやや上方が幅広になるなど概ね両親の中間形質を発現する。花粉は変形して萎縮するものが多く、ほとんど結実しない。

【分布】千葉県。

【県内の状況】本雑種は初めに一宮町、その後長生村にも見出された。しかし、両生育地はその後、大規模造成の実施により環境が改変され、本雑種を含む植被の殆どを失った。

【保護対策】旧生育地には少数個体が残存するので、環境を良好に保全することが望ましい。

【文献】Yashiro, K. 2010. *Carex* × *bosoensis* (Cyperaceae), a New Hybrid from Central Japan. J. Jap. Bot. 85(2): 74-78 / 谷城勝弘 2013 雑種イソハマアオスゲの形成要因について 千葉生物誌 62(2): 23

【写真】2009.5.22 一宮町  
谷城勝弘

(谷城勝弘)



# RH ハシナガアワボスゲ カヤツリグサ科

*Carex ×furusei* T.Koyama

|      |    |
|------|----|
| 2009 |    |
| 2017 |    |
| 2023 | RH |

【種の特性】多年生草本。ヤワラスゲとアワボスゲの推定雑種。1952年5月16日に古瀬義が館山市で採集した標本（TNS-20452）に基づいて小山鉄夫が記載した。[H]

【分布】本州（千葉県、長野県）

【県内の状況】横芝光町で1個体の生育が確認された。ヤワラスゲとアワボスゲの混生地は県内に複数箇所存在するが、雑種形成は極めて稀であり、タイプ産地の館山市以外には知られていなかった。

【保護対策】生育地の河川敷の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Koyama T. 1955 Les diagnoses des Cyperacees nouvelles pour la flore de Japon. J. Jap. Bot.30(5)129-137 / 千植誌 2003: 833

【写真】2011.5.7 横芝光町  
谷城勝弘

(谷城勝弘)



# RH ムジナクグ カヤツリグサ科

*Carex ×takoensis* Endo & Yashiro

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。ムジナスゲとオオクグの雑種で両者の中間的性質をもつ。果胞には少毛がある。[HH]

【分布】本州（千葉県）。多古町で発見され命名された（Endo & Yashiro 1995）。

【県内の状況】多古町及び横芝光町にまたがる多古光湿原には本雑種の両親種のムジナスゲ、オオクグが生育しており、それらの中間的性質をもつムジナクグが広い範囲で確認される。元は1株であったものが、根茎による栄養繁殖を続けて生育範囲を拡大したものと思われる。個体の一部は横芝光町坂田湿性植物園に移植されている。

【保護対策】多古光湿原には保護上重要な種類が複数生育している。古くからヨシの刈り取り続けられてきたが、近年は刈り取りに従事する人がいなくなった。そのため枯れ草が堆積して乾燥化が進むと共にセイタカアワダチソウが繁茂し、種組成が貧弱になりつつある。定期的な刈り取りを継続して複数の希少な種が消滅しないように維持することが重要である。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：167 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原・千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：249 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：117 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / Endo & Yashiro (1995) J. Jap. Bot. 70：273-279 / 千植誌 2003：855,848. / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物・千葉県自然環境保全学術調査報告書・千葉県環境生活部自然保護課 7-29

【写真】1989 多古町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## RH ナガボトネテンツキ カヤツリグサ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Fimbristylis xitaru-itoana* T.Koyama

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。トネテンツキとヒメテンツキの雑種。小穂は長卵形～やり型。ヨシ群綱。風媒で、水散布。  
[Th]

【分布】本州（千葉県）。

【県内の状況】一宮町で発見されたテンツキ属としては初めての雑種。基準産地の一宮町には個体数も相当数あり、果実の結実も良いと記されている。長生村での採集例もある（1936.10.11, S.Okuyama, CBM 該当標本なし）。しかし、その後は生育が確認されていない。トネテンツキ、ヒメテンツキの両者が混生して生える場所は複数見られるので、今後注意して調査すれば再発見される可能性はある。

【保護対策】旧生育地には再度発生する可能性もあるので、良好な自然環境を維持することが望ましい。遷移の初期群落中に発生する種で、群落の遷移とともに消滅する特性があるため、今後生育が確認された場所は適切に管理していくことが望ましい。

【文献】小山鉄夫 1955 日本産カヤツリグサ科の新植物。植物研究雑誌 30(5): 1-9 / 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について。千植誌 1958: 172-194 / 新千植誌 1975: 461. / 千植誌 2003: 861

【写真】一宮町 国立科学博物館所蔵標本  
(谷城勝弘)



## RH イガホタルイ カヤツリグサ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Schoenoplectiella xigaensis* (T. Koyama) Hayasaka

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。ヒメホタルイとホタルイの雑種。ヒメホタルイに比べて根茎は短く、茎は接近してつく。ホタルイに比べて小穂は狭く細長い。風媒で水散布。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】長生村、印西市で確認され、標本が得られている。長生村ではヒメホタルイとホタルイの混生する休耕田に混生する。印西市では、造成湿地にヒメホタルイとホタルイが多数生育し、翌年にイガホタルイが2個体発生した。なお、県内にはヒメホタルイとホタルイが同所的に生育するところは極めて稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1994 調査会目録: 122 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 118 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千生誌 48(1): 6-22 / 千植誌 2003: 882,875

【写真】2003.8.17 長生村 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## RH スナシバ イネ科

*Zoysia ×hondana* Ohwi

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

【種の特性】多年生草本。海岸に生育。シバ（小穂3～4mm）に似るが、小穂は4～5mmとシバより大きく、5～7mmあるナガミノオニシバよりは小さい。花序が葉鞘から抜き出るのでオニシバとも異なる。大井次三郎によればシバとオニシバの雑種とされる。海岸の砂浜に生育する。

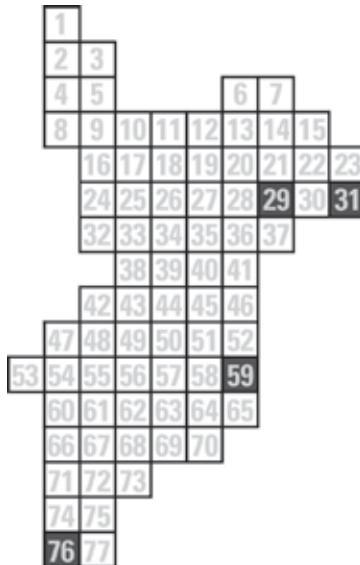
【分布】本州（神奈川県平塚市（基準産地）・福島県四ツ倉・千葉県）。

【県内の状況】鴨川市で採集された標本の記録のみであったが、2001年に匝瑳市でも採集された。

【保護対策】開発により残り少なくなった自然海岸を保全することが望ましい。

【文献】奥山春季 1937 植物研究雑誌 13：35-36／木村陽子 2000 スナシバ再発見と千葉県のシバ属. 千資料 18：137-138／千植誌 2003：761, 752

【写真】2001.6.10 匝瑳市 大場達之（木村陽子）



## RH ワレモコウモドキ バラ科

*Sanguisorba ×pseudoofficinalis* Nuruh.

|      |    |
|------|----|
| 2009 |    |
| 2017 |    |
| 2023 | RH |

【種の特性】多年生草本。ワレモコウとナガボノワレモコウの推定雑種で、大型の多年草草本。茎は直立し高さ1.5m近くに達する。小葉は長楕円形～線状長楕円形で、基部は心形。小葉柄は明瞭。花穂は3～5cmで直立し、紅紫色～暗紅色。花糸の長さは萼裂片と同長かやや長い。完全不稔ではあるが、根茎による栄養繁殖は可能。[H]

【分布】本州（千葉、滋賀、広島）四国（香川）

【県内の状況】2018年に野田市で発見された。稀なものであることには違いないが、一方で認知度の低い雑種でもあるため、今後精査すると新たな記録が増える可能性がある。

【保護対策】ワレモコウとナガボノワレモコウの混生は、それ自体が自然度が高い植生であることを示唆しており、他の希少種も生育している可能性が高い。生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩槻秀明 2022 江戸川におけるワレモコウモドキとアイノコヘビイチゴの観察記録. 千葉県立関宿城博物館研究報告 26：64-69

【写真】2020.10.27 野田市 岩槻秀明（岩槻秀明）



## RH ナンキンギシギシ タデ科

|      |    |
|------|----|
| 2009 |    |
| 2017 |    |
| 2023 | RH |

*Rumex x nankingensis* Rchb.f.

【種の特性】多年生草本。ギシギシとコギシギシの推定雑種で、両者の中間的な性質を持つ。多年草草本と考えられる。株元から茎を叢生し、大株に育つこともある。完全不稔では無いが、稔性は悪く、果期花被片の形や大きさは不揃い。よく育った果実の果期花被片はギシギシのそれに類似するが、縁の切れこみは深く、鋭い刺状となる。成熟しても赤みを帯びず、淡茶褐色に色づくことが多い。[H]

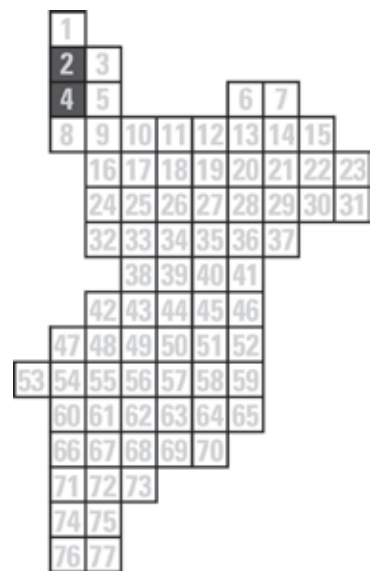
【分布】ギシギシとコギシギシが混生している場所で稀に見られるが、分布状況は不明。

【県内の状況】野田市では複数地点で見ついている。ギシギシ雑種群については分布実態の不明なものが多く、両種が混在している場所を精査すると、さらに記録が増える可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。ギシギシとコギシギシの混生は、それ自体が自然度が高い植生であることを示唆しており、他の希少種も生育している可能性が高い。氾濫原に生えるコギシギシはかく乱依存性があるため、遷移の進行に伴う湿地の草原化に留意が必要。

【文献】岩槻秀明 2022 千葉県立関宿城博物館周辺におけるギシギシ雑種群の観察記録・千葉県立関宿城博物館研究報告 26：70-75

【写真】2020.6.7 野田市  
(岩槻秀明)



## RH サクラオグルマ キク科

|      |    |
|------|----|
| 2009 | RH |
| 2017 | RH |
| 2023 | RH |

*Inula x yosezatoana* Makino

【種の特性】中形の夏緑多年草。オグルマとホソバオグルマの雑種と推定され中間的な形態を持っている。佐倉市で採集された標本を元に命名されたが、正式な発表がないまま、図鑑などに図説されている。

【分布】オグルマとホソバオグルマの分布している地域に広く見られるものと考えられる。ホソバオグルマと混同されている場合が多い。

【県内の状況】佐倉市では広い範囲で採集されている。最初の採集地と考えられる佐倉市は道路建設と開発でほとんど絶滅している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】牧野富太郎・前川文夫・原寛・津山尚 1955 牧野日本植物図鑑増補：1096 / 前川文夫・原寛・津山尚編 1961 牧野新日本植物図鑑 635 / 大場達之 2000 佐倉市の維管束植物相。佐倉市自然環境調査報告書 11-21 / 千植誌 2003：613, 608

【写真】1999.8.4 佐倉市 大場達之  
(大場達之／天野誠)

